
若手・中堅・ベテラン社員へのインタビュー集

若手・中堅・ベテラン社員へのインタビュー集

本インタビュー集について

作成趣旨

- 本インタビュー集は、代表的な6種の職業について、各3世代(若手・中堅・ベテラン)の社員に対するインタビューに基づき作成したものです
- 「事務」や「営業」など、抽象的で大学生が理解しづらい職業や、「介護」「商社の仕事」など、今後少子高齢化やグローバル化が進行する社会においてニーズが高まると考えられる職業を取り上げています
- 取り上げた職業について、①大学生の理解の促進、②世代による違いを理解することの大きく2点を狙いとしています

活用方法

- 本インタビュー集は、「厚生労働省 平成26年度キャリア教育プログラム開発事業」で開発した、キャリア教育プログラムで使う教材として、活用することを想定しています(「【B-8】社会人インタビュー情報から学ぶ1」～【B-10】社会人インタビュー情報から学ぶ3」のプログラムの教材として)。
- 本インタビュー集を単体で、授業の資料等として活用することも可能です

<目次>

一般事務の仕事 職業紹介	2	情報処理・通信技術者 職業紹介	38
一般事務の仕事 若手社員	3	情報処理・通信技術者 若手社員	39
一般事務の仕事 中堅社員	7	情報処理・通信技術者 中堅社員	43
一般事務の仕事 ベテラン社員	10	情報処理・通信技術者 ベテラン社員	46
営業の仕事 職業紹介	13	製造技術者 職業紹介	49
営業の仕事 若手社員	14	製造技術者 若手社員	50
営業の仕事 中堅社員	18	製造技術者 中堅社員	54
営業の仕事 ベテラン社員	21	製造技術者 ベテラン社員	57
営業の仕事 ベテラン社員	24	商社の仕事 職業紹介	60
介護サービスの職業 職業紹介	27	商社の仕事 若手社員	61
介護サービスの職業 若手社員	28	商社の仕事 中堅社員	65
介護サービスの職業 中堅社員	32	商社の仕事 ベテラン社員	68
介護サービスの職業 ベテラン社員	35		

職業紹介

一般事務の職業



具体的な職業名

ここで紹介する職業は、以下を含んでいます。

- ◆総務事務員
- ◆人事事務員
- ◆企画・調査事務員
- ◆受付・案内事務員
- ◆電話応接事務員
- ◆総合事務員
- ◆医療・介護事務員 など

(出所:「厚生労働省編職業分類」小分類より)

仕事の内容

◆一般事務は、行政機関や企業の事務部門などにおいて、文書や資料の作成、文書の分類、整理、ファイリングなど一般的な『事務処理を行います。電話での応対、伝票の記入、ダイレクトメールの発送手続きや、会社に届いた郵便物を仕分けし、部署や担当者に届ける作業などを行います。

◆生産現場の事務員は、工場などの生産現場において、生産、工程の管理、記録、公務、労務、資材などについての事務を行います。作業の進行状況をパソコンに入力し、各工程間の調整や連絡を行います。

◆営業や販売の事務員は、メーカー、商社、百貨店などの営業部門において、売買契約書類や売上伝票の作成、納品伝票や代金請求書の管理など販売に関するさまざまな事務手続きを行います。

(出所:労働政策研究・研修機構(2004)『職業レファレンスブック』より、「一般事務員」「生産現場事務員」「販売係事務員」)

関連資格

- ◆簿記

(運営主体:日本商工会議所)

※厚生労働省 教育訓練給付制度「専門実践教育訓練」認定資格

働く人の姿

- ◆代表的な「一般事務の仕事」(ワープロオペレーター(女))

- 労働者数:23,290人
- 平均年齢:39.6歳
- 平均勤続年数:8.9年
- 所定内実労働時間:162時間/月(20代:162時間/月)
- 超過実労働時間:9時間/月(20代:10時間/月)
- 平均賃金:234,100円/月(20代:205,700円/月)

(出所:厚生労働省「平成26年賃金構造基本統計調査」より、「ワープロオペレーター(女)」(企業規模10人以上の数値)。上記調査では、一般事務の仕事に該当する職業として、「キーパンチャー」もあるが、労働者数が最多の「ワープロオペレーター」を掲載。)

労働条件の特徴

✓民間企業、官公庁、各種団体など事業を営むところは必ず事務の仕事が発生するため、職場は全国に渡っています。

✓就業時間は、午前9時から午後5時までで、週休2日制がほとんどです。月末など、伝票や文書の締切りが集中する時期には、残業をすることもあります。

✓経理・会計は管理システムの導入等機械化が進んでおり、単純な計算や帳票作成は少なくなり、業務は高度化、専門化しています。

(出所:ハローワークインターネットサービス「一般事務員」及び「経理事務員」
<https://www.hellowork.go.jp/doc2/E36101syakaifukusisisetukaigosyokuinn.pdf>、<https://www.hellowork.go.jp/doc2/C26301keirijimuinn.pdf>)



Q. 学生時代のご経験と就職した経緯について教えてください。

前線の営業職などを後方でバックアップしたかった

学生時代はサークル活動一色でした。テニスサークルに所属し、特に2年生の1年間は幹部として、経費を管理する役職を担当していました。サークル活動は、苦労も多かったですが、充実した濃い時間であり自分を成長させることができた経験でした。

現在の会社に就職した経緯は、前職でも営業事務として働いていたため、その経験を活かせる職種を探していたことと、前線の営業職の方々を後方でバックアップするような仕事が自分には向いていると思ったことが理由で、現在の会社に転職しました。

Q. 一般事務の職業には、どのような人が向いていると思いますか。

明るく人と接することができる人

明るく人と接することが好きな人が向いていると思います。

特に、事務職の場合、電話の応対などでは、声が明るい方が聞き取りやすいですし、好感を持ってもらいやすいと思います。本来の仕事の話は、その後の部分なので、入り口でつまづかないよう、適切な対応が求められます。

また、これは事務職以外にも共通していえることだと思いますが、受け身ではなく、自発的に考えて行動することができる資質も、他の職種と同様に事務職でも求められると思います。

[プロフィール]

Yさん 女性(20代)
大阪営業課(事務職)
入社2年目(中途入社 文学部卒)

[経歴]

2013年中途入社。前職では、営業事務を3年程度経験後、現在の会社に転職。

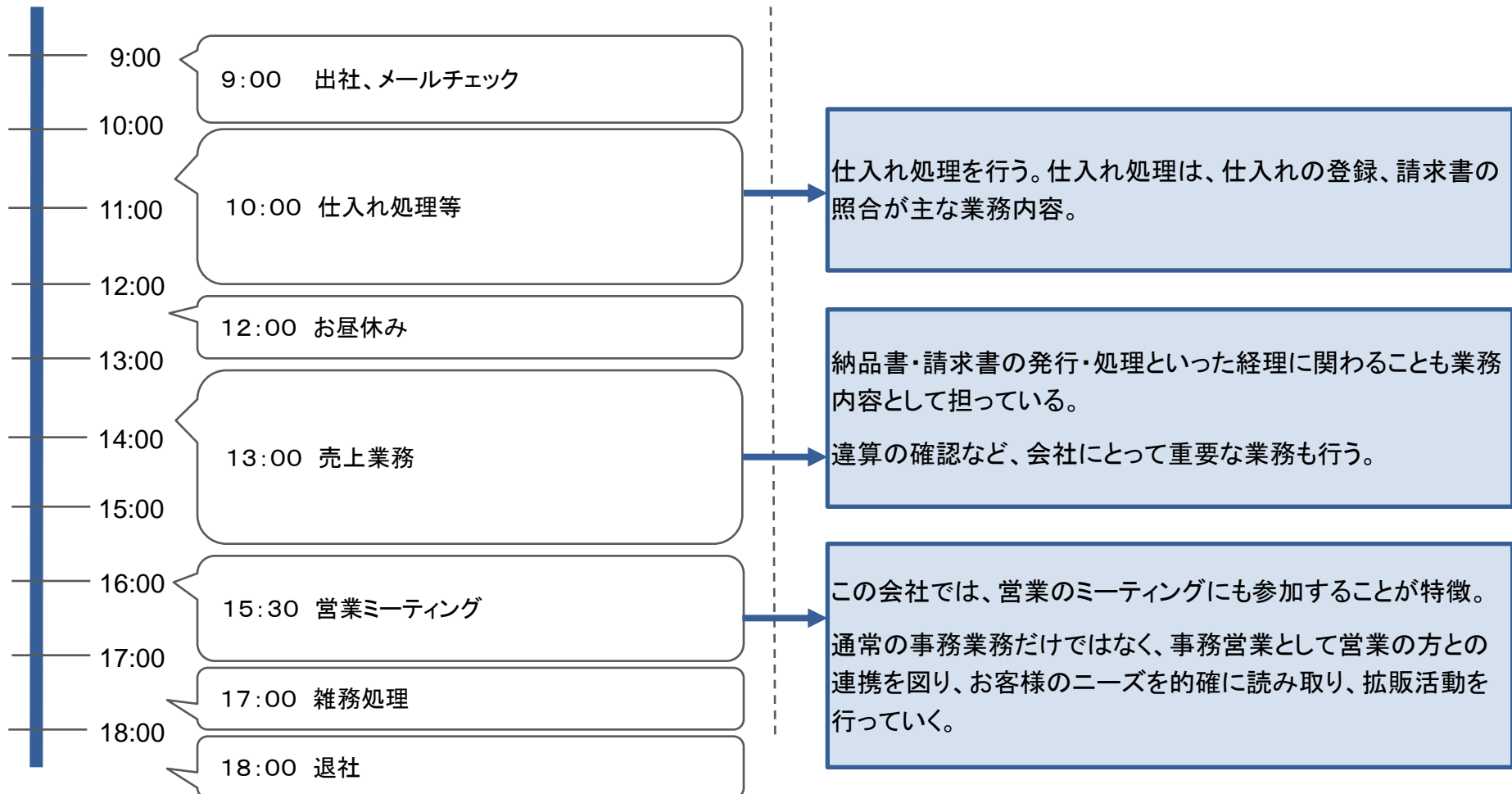
[現在の主な業務内容]

事務営業、売上処理(納品書・請求書発行)、仕入れ業務(仕入れの登録・請求書の照合)、違算確認、電話・来客対応が主な仕事
特に「事務営業」に関して、営業職の方へのフォローだけではなく、事務部門で対応できる部分については事務部門で対応にあたるという業務の内容。





Q. 1日の仕事のスケジュールを教えてください。





Q. 働くなかで感じるやりがいと、苦勞していることを教えてください。

———— 去年できなかったことが一人で処理できるようになるなどの成長実感は嬉しい

<仕事で感じるやりがい>

例えば、電話応対で先輩社員に代わっていただいていた部分が、自分の判断で対応できるようになったなど、以前はできなかったことが一人で処理できるようになり、業務の幅の拡張という点で成長を実感できたときは嬉しいですね。また、BtoB(企業対企業)の業務形態とはいえ、電話口などで、お客様から直接感謝をされたり、その後も良い関係を築くことができたときには、仕事の楽しさややりがいを感じます。

<苦勞していること>

お客様のニーズを的確に読み取ることに苦勞しています。お客様に喜んでいただける製品を提案できるように、もっと知識をつけていきたいと感じています。

Q. 学生時代に学んだことと現在の職業の関係性について教えてください。

———— サークル活動の経験が、現在の自分を作っている

大学は、文学部フランス語フランス文学専修で、卒業論文では、「マリーアントワネットの生涯」について研究したので、力を入れて取り組んだ内容と現在の仕事はほとんど関係がないのが正直なところです。大学の授業は、「情報処理」の授業をもう少ししっかり受講すれば良かったなと思います。

学生時代は、やはりサークル活動の経験が、現在の自分を作っていると思います。中学高校時代では経験しなかった挫折や、大きな達成感を味わう経験ができ、人との関係の築き方を学べましたし、メンタル面も鍛えられました。サークル活動をはじめ、学生時代には大変な経験もしましたが、それ以上に社会人では責任を持たなければならないことが待ち構えていると思うので、学生時代の経験は無駄ではなかったと思います。



Q. 将来のキャリアイメージを教えてください。

結婚、出産を経験し、子育てをしながら、変わらずに働き続ける

結婚して、子どもを産み、子育てをしながらも、変わらずに働いているという姿をイメージしています。

前職を辞めた理由として、女性が長く働き続けることができない職場環境だったことを挙げる事ができません。

現在、私の周りの先輩社員には、子どもを産んでも働き続け、家庭と仕事を両立し、パワフルに働いて会社を引っ張っているお母さん社員が多くいます。子どもを産んでも戻って来られる場所があることは女性にとって大きなことですし、お手本とできる先輩社員が多くいるので、私もそのようになれると思います。

業務面では、より業務の幅を広げて、一人でできることをもっと増やしていきたいです。



Q. 学生の皆さんに対してメッセージをお願い致します。

いろいろなことにチャレンジして、挫折も含めて経験しておくことが非常に大事

社会人になってしまうと、新しいことにチャレンジすることに億劫になり、いろいろなことを理由にして、新たなことをすることを遠ざけがちになると思います。そのため、学生時代のうちに、いろいろなことにチャレンジして、挫折を含めて経験しておくことが非常に大事だと思っています。

事務職だけではなく、興味を広げていた方が、将来の選択の幅は広がると思います。そのためには、やる前から決めつけず、とにかく行動してみて、自分の好きなことや得意なことを見出すことができる時間にしてほしいです。友達と旅行に行くことでも、新しいアルバイトをすることでも、習い事を始めてみることも良いと思います。その中で何か気づきがあるはずなので、その気づきを大切にしてください。大学生は、大人ぶれて、なおかつ子どもぶれる、一番恵まれた時間だと思います。それを存分に活かしてほしいです。

また、事務職として、秘書検定を取得したり、語学力を身につけておくと、活かせる場面があると思います。



Q. 学生時代のご経験と就職した経緯について教えてください。

卒業論文では、単身アメリカでの現地調査も実施

卒業論文で、アメリカの小学校における話し方教育・人格形成・プレゼンスキルにおける教育の影響について取り組みました。アメリカのミシガン州・フロリダ州へ単身で現地調査を実施したり、人文学部所属でしたが教育学部のゼミにも参加したり、ESS(英会話サークル)にも所属するなど幅広い活動をしました。

この会社へは、現在の社長から総務経理など事務職を担当できる人を探しているとオファーがあり、前職までの経験を活かせるのではないかと思います、転職を決意しました。

Q. 同じ職業の若手社員との違いとして、どのようなことがありますか。

業務のスピード・精度・アウトプットの質

同じ事務職の若手社員がいますが、業務をこなすスピード・精度・成果として出すアウトプットのそれぞれの質が違うと思います。これは、経験の差によるところが大きいです。

また、若手の頃とは違い、中堅社員になることで、後輩の指導も求められているということを感じています。

【プロフィール】

Oさん 女性(30代)
コントロールセンター所属(事務全般担当)
入社8年目(中途入社 人文学部卒)

【経歴】

2006年12月に、現在の社長からオファーを受け転職。
それ以前は、PCスキルのインストラクター、営業事務等を経験。これまでのキャリアで培った経験を活かせる職業に従事してきた。

【現在の主な業務内容】

総務経理など事務職を担当。
「人事部」、「情報システム部」など、体系だった組織がないため、事務まわり全般を担う。
具体的に、会計ソフト入力、売上・経費管理、会社の状況の把握など。人事関係、総務関係など、社員約70人分をほぼ1人で担当している。





Q. 働くなかで感じるやりがいと、苦勞していることを教えてください。

社会保障関係の知識を理解できる／事務職という仕事への理解不足、短時間正社員制度の導入

<仕事で感じるやりがい>

総務経理担当として、出入金などの数字がぴたりと合うと嬉しくなります。この数字が合わないと会社の状況分析などもできないため、会社の根幹を支えているともいえます。また、総務系の仕事は、社会保障関係の知識など、自分自身の生活にも関連することを理解できることが良いところです。

<苦勞していること>

総務経理という仕事について、理解者が少ないことに苦勞しています。業務量としては非常に多いものの、なかなか日の目が当たらない仕事です。

ワークライフバランスという点も苦勞があります。子育てをしながら勤務を続けていますが、子どもの夜泣きへの対応などで十分に寝られないまま、代替の利かない仕事をしなければならないため大変です。現在は、会社と交渉して初の短時間正社員として働いています。短時間正社員の導入は比較的スムーズでしたが、会社から自分が必要な人材だと思ってもらえるようにスキルを磨くことを継続することが大事で、如何にこの会社には自分が必要かということを説得できるように、日々の仕事をより丁寧に行っています。

Q. 学生時代に学んだことと現在の職業の関係性について教えてください。

報告書作成のスキル向上、さまざまな成功体験が現在の仕事への向き合い方にも影響

卒業論文執筆や授業でのレポートの作成などによって、実際の仕事においても報告書類等の作成におけるスキルが活かせる部分があり、また心理的な抵抗感を感じずに取り組んでいます。

また、卒論、サークル、アルバイトなど非常に充実した学生生活をしながら成功体験を重ねられたことが、現在の仕事への向き合い方に影響していると思います。



Q. 将来のキャリアイメージを教えてください。

子育てをしながら勤務を継続し、仕事をしている姿を子どもに見せたい

<ライフキャリア全般について>

子どもの成長を見守っていきたいですね。ただし、現在の生活に支障が出ない限りは母親としての役割をまっとうしながら、これまで培ったスキルを活かして、仕事も継続していきたいと思っています。仕事を頑張っている姿を子どもにも見せたいです。

<業務について>

組織として拡大するためにも、現在自分自身が担っている役割に関して負荷分散をする必要があります。そして、それを担える後継者を育てることが今後の取り組んでいくべきことの一つです。

Q. 学生の皆さんに対してメッセージをお願い致します。

働き出した後にこそ勉強しなければならないため、勉強する習慣を身につけておくべき

学生時代は何にでもチャレンジができて、それについての責任が問われない時代です。社会人になった後、もっと勉強すれば良かった、もっと遊んでおけば良かったと後悔しないような学生生活を送ってほしいですね。また、社会に出て働き出した後こそ勉強しなければならないので、勉強する習慣を身につけておくことも大事だと思います。

事務職を目指す方は、簿記、ファイナンシャルプランナー、パソコン関連の資格を取得することが望ましく、可能な限り学生時代のうちから早めに動いた方がいいと思います。パソコンのスキルも一般的なことができるレベルか、より詳しいツールを駆使できるレベルなのかによって、業務に活かせる幅が異なってきます。IT業界の事務職という点では、ネットワークについての知識もあれば尚良いと思われ、知識があることでも業務で何らかの気づきが得られやすくなると思います。



Q. 就職した経緯について教えてください。

海外経験、商社の方々の人柄に惹かれたことがきっかけ

父の仕事の関係で、マレーシアで小学校時代の5年間を過ごし、その頃から海外には興味があり、将来は海外と関わりのある仕事がしたいと思っていました。また両親ともに商社勤務だったため、商社の仕事を身近に感じており、意識するようになりました。

同じ時期マレーシアにいらした父の会社の方々(帯同家族、出張者含む)や、父が他界した後も自宅へお参りに来て下さった父のかつての職場の方が魅力的であり、こうした方々と一緒に働きたいと思ったことがきっかけです。

商社では、総合職ではなくそうした方々が気持ちよく働いてもらうためのサポート役をしたいという想いから一般職を目指しました。

Q. 同じ職業の若手・中堅社員との違いとして、どのようなことがありますか。

経験を積むことで、対応の引き出しが増えてくる

経験を積むことで得られる危機察知能力、例えば、先回りの対応や、実際にトラブルがあったときの対応が違いの一つだと思います。さまざまな業務経験により対応の引き出しが増えてきます。

また、人間関係や職場の雰囲気を含む全体を俯瞰できることも違いです。一般職の後輩や、異動から間もない総合職の方に対しても、課の事務を長く担ってきた経験から指導にあたっています。

[プロフィール]

Kさん 女性(30代)
チップ・パルプ部パルプ第一課 一般職
入社16年目(新卒入社 文芸学部卒)

[経歴]

新卒入社後、同じ課の一般職として勤続。

[現在の主な業務内容]

紙の原料、パルプの輸入ビジネス、営業(総合職)が成約した後、輸入通関の手配、国内の客先への販売、在庫パルプの納入デリバリ手配を行い、さらに、これに関わる全ての経理(仕入売上の計上、入出金手配、為替や在庫の管理等)が主な業務。経理関係が業務全体の半分近くを占める。





Q. 働くなかで感じるやりがいと、苦勞していることを教えてください。

———— スムーズに進まないことが常であるため、大変だが苦勞と思わないようにしている

<仕事で感じるやりがい>

総合職の方が仕事をやりやすいと感じてくれるアシストができていたり、トラブルが起きずにスムーズに日々の業務が進んでいるときは嬉しいです。総合職の一人ひとりの性格やクセをみながら、柔軟に個別にフォローすることを心掛けています。

仕事に対しては、特別なやりがいや達成感などを求めず、とにかく目の間にあることに全力で取り組むという姿勢で仕事を続けてきました。

<苦勞していること>

日々の業務についてはスムーズに進まないことが常なので、大変なことはありますが、それも仕事の一部と思い、苦勞と思わないようにしています。

かつて人間関係の部分では苦勞したこともありましたが、それでも、嫌なことを笑いに変えたり、また信頼できる人に相談して乗り越えてきました。角度の違った意見をもらい、支えてくれる人がいたことは幸運でした。そういった経験は、以後似たような場面ではそれを大変と感じずに対応ができるようになり、また他に何か苦しい思いをしても、「最後には何とかなる」とある時点で思えるようになりました。

Q. 学生時代に学んだことと現在の職業の関係性について教えてください。

———— 失敗を受け止めて、それを次の糧にできる精神力と学ぶ力は、仕事でこそ生きてくる

勉強からも遊びからも、失敗を受け止めて、それを次のステップへと糧にできる精神力と学ぶ力は、仕事でこそ生きてくるものだと思います。

失敗したときに逃げることは、自分の伸びしろを削いでしまうことになり、非常にもったいないことです。一度逃げたことは永遠に逃げ続けなければならず、それはかえって苦しいことだと思います。

また、例えば最初は興味を感じず、「やらされている」と感じることで、角度の違う発想を意識して、何かしらの楽しみや新たな発見を見出そうと工夫して取り組む感覚があれば、身につかなかったものが身についたかもしれないと思います。



Q. 将来のキャリアイメージを教えてください。

培った経験をバランス良く現場に還元して、一緒に働けて良かったと思われる人になりたい

具体的に5年後、10年後というスパンでのキャリアイメージではなく、以下のような姿を常に心掛けています。

長く社会で働かせてもらっている身として培った経験をバランス良く現場に還元し、周りから一緒に働けて良かったと思われる人になりたいです。また、現実的に難しいことですが、仕事に追われると気持ちの余裕が少なくなることもありますが、できるだけ穏やかに感謝の気持ちを忘れず、日々のめまぐるしい業務にあたる人間になりたいと思っています。

また、オペレーションレベルでは進化し続けること、業務をよりスピーディーに、ミスなく、確実にこなすことを続けることに尽きます。より効率よくできることはないか、常に見直しながら業務にあたりたいと考えています。

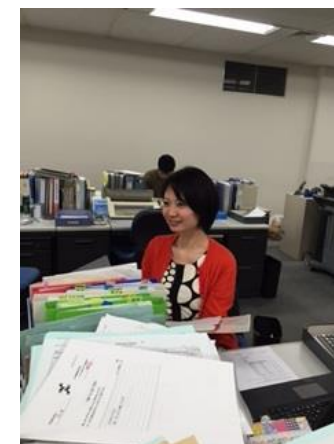
Q. 学生の皆さんに対してメッセージをお願い致します。

失敗しても、気持ちが落ちてもよい。大事なはその状態の自分を知ること。

おそらく、大学時代までよりも、大学卒業後の社会の方がずっと厳しいです。時には限界以上の無理をしなくてはならないときもあります。素直で打たれ強い、一度挫けてもよいからそれを糧に成長できる心を育ててください。そうすれば、様々なことへの対応力が上がり、多くの出来事をプラスに変えられる人間になれると私は思っています。

失敗してもよいですし、気持ちが落ちてもよいと思います。大事なのは、その状態の自分を知ることです。そして、「苦しかったことを乗り越えて今の自分がある。だから何とかなる。」と、ゆっくりでよいので前を向くことです。

また、進路選択にあたっては、自然体の自分のままでいられる、働きながら成長していきたいと感じられる職場がお勧めです。



職業紹介

営業の職業



具体的な職業名

◆ここで紹介する職業は以下を含んでいます。

- 飲食料品販売営業員
- 化学品販売営業員(医薬品を除く)
- 医薬品営業員
- 機械器具販売営業員
- 通信・情報システム営業員
- 金融・保険営業員
- 不動産営業員 など

(出所:「厚生労働省編職業分類」小分類より)

仕事の内容

◆家庭、企業、事業所などを訪問し、商品の販売、サービスの勧誘、値段の交渉などの業務を行います。

✓例えば、OA機器の営業マンの場合は、担当する行政機関や企業などを定期的に訪問し、納入したコピー機などの調子を確認します。また、新しい機器を販売する商談を行い、カタログを提示したり、新製品を実際に使用してもらうなどしてセールスポイントなどを説明します。

✓交渉によって値引きをするなどして契約を結びます。また、商品を納入する手続きを行い、代金の請求書を送付します。倉庫に保管してある部品や消耗品などを直接届けて、代金を回収することもあります。

(出所:労働政策研究・研修機構(2004)『職業レファレンスブック』より、「商品販売外交員」)

関連資格

◆ 販売士

(運営主体:日本商工会議所)

※厚生労働省 教育訓練給付制度「専門実践教育訓練」認定資格

働く人の姿

◆代表的な「営業の仕事」(保険外交員)

- 労働者数: 170,760人(男性: 36,390人、女性: 60,720人)
- 平均年齢: 男性42.5歳、女性47.5歳
- 平均勤続年数: 男性9.1年、女性10.6年
- 所定内実労働時間: 142時間/月(20代: 男性153時間/月、女性141時間/月)
- 超過実労働時間: 1時間/月(20代: 男性2時間/月、女性2時間/月)
- 平均賃金: 311,900円/月(20代: 男性300,900円/月、女性189,550円/月)

(出所:厚生労働省「平成26年賃金構造基本統計調査」より、「保険外交員」(企業規模10人以上の数値)。上記調査では、営業の仕事に該当する職業として、「自動車外交販売員」「家庭用品外交販売員」もあるが、労働者数が最多の「保険外交員」を掲載。)

労働条件の特徴

◆ここでは代表的な営業の職業を取り上げます。

✓医薬品営業職: 医師などが使用する医薬品(医療用医薬品)を製造・販売している製薬会社などに勤務します。医療機関は全国にあるため、一定の地域を担当してその中の医療機関を訪問する、または大学病院を担当するなど担当生をとることが多いです。

✓住宅・不動産営業職: 勤務先は、住宅・不動産会社(宅地建物取引業者)、住宅メーカー、建設会社などとなっています。お客の都合に合わせて、日曜、祝日に訪問したり、現地に案内することが必要なので、労働時間・休日は不規則です。休日はウィークデイの火曜、水曜にとるところが多くなっています。

(出所:ハローワークインターネットサービス「医薬情報担当者」及び「住宅・不動産営業員」<https://www.hellowork.go.jp/doc2/D34301iyakujouhoutanntousya.pdf>
<https://www.hellowork.go.jp/doc2/D34701juutakufudousanneigyounn.pdf>)



Q. 学生時代のご経験と就職した経緯について教えてください。

スポーツ・教育関連の仕事に就きたいと思っていた

学生時代は、ボランティア活動に熱心に取り組みました。東日本大震災によって外で遊べない子供達を招いて、2011年の夏に愛知県内でリフレッシュキャンプを実施し、その後の夏と冬にキャンプを実施しました。

そうした経験や、大学がスポーツ科ということもあり、スポーツに携わりながら教育現場で働きたいと漠然と考えていました。ただ、実際に就職活動を経験し、内定をもらったのが現在のIT企業でした。入社初年の12月に転機があり、現在は、元々やりたかったスポーツ関連、教育関連の仕事に就けています。

Q. 営業の職業には、どのような人が向いていると思いますか。

失敗を笑顔でカバーできるような愛嬌がある人

営業職には、愛嬌がある人が向いています。失敗を笑顔でカバーできるような愛嬌があり、お客さんに気に入ってもらえるような愛されるキャラクターの人が向いていると思います。

その点では、学生時代のゴルフ場でのアルバイト経験が活かしています。年配の男性の方との話し方や接し方などを自然と身につけることができました。

また、話の引き出しの多さも大事になります。大学で部活をやっていたというだけで、指導者との会話が広がります。また、私の出身は長野県ですが、大学は愛知県内でしたので、そうしたことでも地元の指導者とはコミュニケーションができます。

[プロフィール]

Kさん 女性(20代)
チームサポート事業部所属
入社2年目(2013年3月 スポーツ学科卒)

[経歴]

2013年4月入社。入社初年後の12月に、偶然にも、現在のチームサポート事業部が創設され、異動となる。

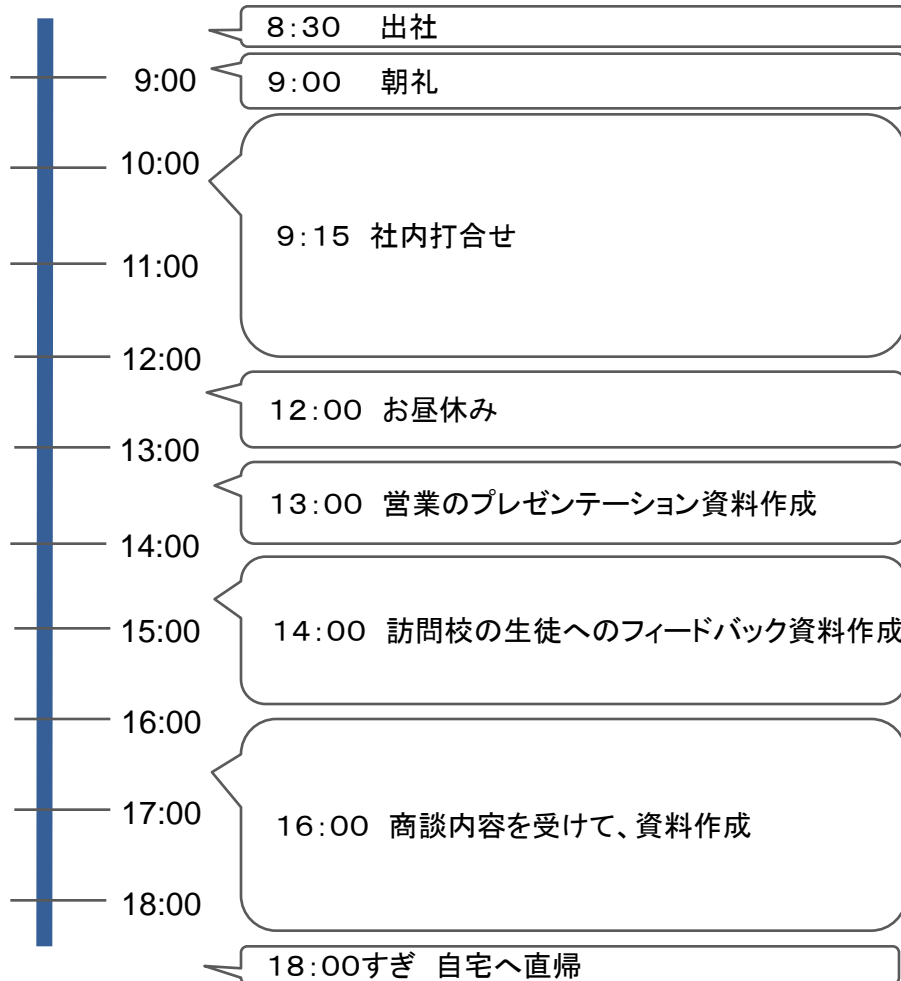
[現在の主な業務内容]

ITツール等を用いた、高校生アスリートのコンディショニング指導に従事。現場の指導者や保護者に営業を行っている。大会の時などに出向いて、指導者に直接営業をかけることもある。管理栄養士のコーチがおり、食事指導と測定を行い、コーチが選手にフィードバックをする際のアドバイザー的な役割も担っている。





Q. 1日の仕事のスケジュールを教えてください。



前日に訪問した学校での様子や、営業活動の状況などを振り返りながら、メンバーで情報共有を行う。
学校の先生からの質問に対する回答なども考える。

お客さんである学校の部活動の練習に訪問。
18時まで練習を見学して、選手の様子を観察し、フィードバックの内容や方法などを考える。
顧問の先生やコーチなどともコミュニケーションを図り、選手個人や、チーム全体のコンディションを把握する。



Q. 働くなかで感じるやりがいと、苦勞していることを教えてください。

挑戦することで成長を感じさらに挑戦できる／短期間での必要なスキルの習得が求められる

<仕事で感じるやりがい>

指導をしている選手が成長することです。アドバイスやフォローをするに従って、選手の表情が変化してきます。目標に向かっていく姿や達成する姿をみるのが嬉しいですね。

<苦勞していること>

学校の先生にアプローチしたいところですが、「営業職」に対して偏った見方がされ、教育現場にはなかなか入りにくいことが苦勞している点です。

また、高校生に伝えるには技術がいると思います。知っている情報を全て伝えるのではなく、選んだ情報をわかりやすく整理して伝えなくてはなりません。知識面を充実させることに加えて、人に説得的に伝える力が必要です。

Q. 学生時代に学んだことと現在の職業の関係性について教えてください。

突然、大学で学んだことが生きる機会が訪れるときがある／アルバイトは大人と関わる機会

学生時代はスポーツ科に所属していましたが、食事とスポーツは関連して勉強しませんでした。学生時代は、現在のこうした仕事に就いているとは思っていませんでしたし、何を勉強すれば役に立つのかわからなかったというのが正直なところです。

今思えば、学生時代に資格をとっておけば良かったと思います。具体的には、栄養士の資格や健康運動指導士です。もう少し視野を広げ、興味をもって勉強しておけば良かったと思います。



Q. 将来のキャリアイメージを教えてください。

結婚/出産に伴い、転職の可能性もあるが、営業職で身につけたスキルは別の仕事でも活かすことができる

直近として数ヶ月後に、転勤することが決まっています。どの都道府県にも高校はありますし、新たな地でがんばろうと思っています。

また、10年後には、結婚して子どもがいる状態が理想です。ただし、結婚や出産を経験しても、仕事は続けていきたいと思っています。現在とは全く違う仕事をしている可能性もありますが、営業職で身につけた人とコミュニケーションをとるスキルは別の仕事にも活かすことができると考えています。

Q. 学生の皆さんに対してメッセージをお願い致します。

やりたいと思ったことには取り組むべき

様々な経験をしておいた方が良いと思います。自分でやりたいと思っていたことはやっておくべきです。

私自身、大学生活の当初は部活動が生活時間の大半を占めていました。しかし、このまま部活動だけの学生時代はもったいないと思い、愛知県の学生団体に入りました。そこで活動をしている中で、ラオスに病院を作るためのサポートをしたり、ホームレスの研究活動や自分で勉強会の開催もしました。こうした経験を通して、やりたいと思ったことはやれると感じましたし、興味があることは学生時代に是非取り組むべきです。

また、様々な経験を積む過程で、多くの知り合いができると思います。そうした人との繋がりも大事にしてほしいです。



Q. 学生時代のご経験と就職した経緯について教えてください。

「目に見えるものを扱いたい」という想いからメーカーを志望

大学卒業後、アパレルメーカーに3年間勤務後、現在の会社に転職をしました。業界への強いこだわりはありませんでしたが、「目に見えるものを扱いたい」という想いから、メーカーを志望して、現在の会社に入社したという経緯です。

「目に見えるものを扱っていない」ような業種に対しても、仕事での関わりを通して、彼らの必要性や重要性、得意分野を知ることができました。これは5、6年間働く中でわかったことです。

Q. 同じ職業の若手社員との違いとして、どのようなことがありますか。

オーダーメイドの研修プログラムを作成

当社では、確立された研修マニュアルやプログラムではなく、所属部署のニーズ、その人の特性を考え、研修内容をカスタマイズすることで、充実したものとなっています。

一般的な企業のように営業ノルマを課すのではなく、営業チームとして目標に対する結果責任を負うという姿勢を若手社員も持つ必要があります。

また、若手社員の成長のために、仕事の量と難易度を斜め割りし、量だけを数多くこなすのではなく、難易度の高い仕事にも取り組むことで、自分で考え、どう振る舞うかといった力を身につけてもらうようにしています。

[プロフィール]
Tさん 男性(40代)
大阪営業課 係長
入社13年目(中途入社 法学部卒)

[経歴]
高校卒業後、一度就職し、その後大学進学。大学卒業後、3年間アパレルメーカーに勤務し、2001年に現在の会社に転職。

[現在の主な業務内容]
大阪営業課のチーフとして営業課の経営管理責任を担い、また現場営業担当者として客先(ディーラー)に対して、自社製品の拡販活動を行う。
また、広報委員長として、メディア対応やHP、カタログの作成、新製品説明会の企画・運営にも携わっている。





Q. 働くなかで感じるやりがいと、苦勞していることを教えてください。

相手のニーズと自分たちのニーズが合致したときにやりがいを感じる

<仕事で感じるやりがい>

販売する製品群はニッチなものですが、奥が非常に深いです。競合他社も同じような製品を扱っています。その中で相手の得は何か？ということを考えて行動し、メーカーとしての違いを理解され、それが成果として現われたときは特に満足感を感じる時ですね。

<苦勞していること>

こちら側の想いと顧客側の想いが違うときや、状況も刻々と変化することにより、変化への対応や判断力も求められます。大変ではありますが、それで嫌になるというわけではなく、失敗をしたらその失敗を次の機会に活かそうという想いで取り組んでいます。

他にも大変なことはありますが、本当に良いものを製造しているメーカーだという強い自負があるので、やりがいを感じながら仕事ができています。

Q. 学生時代に学んだことと現在の職業の関係性について教えてください。

営業職において、物事の考え方や理解する力は、大学できちんと学んだかどうかが出る

私自身、大学ではほとんど勉強をしなかった身なので何も言えないのですが、やはり、営業職である以上は、最低限の経済学や経営理論、世の中の情勢や、政治などは、その成り立ちや現在の状況を学ぶ必要があったと思います。

大学できちんと学んだ人と、そうではない人では、仕事に関わったときに、物事の考え方や理解する力、学ぶ姿勢などで、歴然とした差が出てしまい、人としての幅の違いを感じます。



Q. 将来のキャリアイメージを教えてください。

日々成長していきたい

青臭いですが、日々成長していきたいと思いますね。今日も良かったけど、明日もっと良くなって、明後日はさらにもっと良くなっていきたいと思います。常に変化していく自分を楽しみながら、もっと働いていきたいと思っています。

Q. 学生の皆さんに対してメッセージをお願い致します。

毎日、真剣に学んで、遊んで、その中でたくさんの「出会い」や「気づき」を経験してほしい

自分が就職活動をしたときは、バブルがはじけ、いわゆる就職氷河期でした。そんななかで、就職活動では特に何も考えもせず、「とりあえず就職をして、嫌だったら辞めればいいのか」程度にしか考えておらず、力を入れて就職活動に取り組まなかったことに後悔があります。

ですが、就職は人生の非常に大きな転換期の一つであり、現実として、アルバイトと違って、「気に入らなければ次に行こう」とはなりません。

そうした大きな転換期を前にして、“就職用の自分像”を作るのではなく、“自分は一体どうしたいのだろう”、“どのようなことをするとハッピーになれるのかなあ”ということを素直に考えてみると良いと思います。「冒険的な人生を送りたい」、「安定」という言葉が何よりも好き、「人の役に立ちたい」、「同じ場所でじっくりと腰を据えたい」、「世界中を飛び回りたい」など自分はどんな人間なのかを考え、その上で「就職」という道が適していると思えば、その道を選択するという考え方が良いと思います。このような「気づき」を学生の皆さんにはできるだけ早く経験してほしいです。

そのためにも、大学1、2年生は、就職は先のことで考えられない人がほとんどだと思いますが、それで良いと思います。私自身もそうでした。ただし、講義はきちんと受けて、遊ぶときには目一杯遊び、バイトも楽しむ、というようにメリハリをつけて、どの活動にも真剣に取り組めば、そのなかでの色々な「出会い」や「気づき」があり、興味や自分が惹かれることが出てきて、それが数年後の進路選択の際に財産になる、と今になって思います。



Q. 就職した経緯について教えてください。

IT業界が魅力的な時代、未経験者採用の企業を探していた

10年前はITバブルの時代であり、東京からUターンを考えていたところに、漠然と魅力的な業界だと感じていたIT業界に絞って就職活動をしました。IT業界は、中途採用の場合は即戦力が求められると聞いていましたが、未経験者でも受け入れてくれる企業があり、運良く採用されました。

IT業界というと、専門知識があって、プログラムをかけないとやっていけないイメージがありましたが、それは全く異なります。むしろ中途であっても、社会人としての基礎力が重要になってきます。

Q. 同じ職業の若手・中堅社員との違いとして、どのようなことがありますか。

事業計画立案と責任、メンバーのモチベーション向上

マネージャーになれば、事業計画を立案し、その計画を遂行する責任があります。

それを、自分一人ではなく、如何にしてメンバーを巻き込んで、メンバーがモチベーションをもってどうやるかを常に考えています。

若手・中堅社員との違いは、自分がプレイヤーとしてパフォーマンスを上げるのではなく、メンバーのパフォーマンスを上げてチームとして成果を出すことが求められることです。そのために、若手社員には成長機会を作ってあげることも必要です。それがやりがいにも繋がっています。

【プロフィール】

Tさん 男性(30代)
チームサポート事業部 マネージャー
アクティブサポート事業部 マネージャー(兼任)
入社9年目(中途入社 専門学校卒)

【経歴】

専門学校卒業後、映像に関わる仕事がしたいと思っていた。東京で、勤めていた会社が倒産して、地元である名古屋にUターンしてきた。

【現在の主な業務内容】

事業部のマネージャー(部長)として、新たな事業部の立ち上げに従事。現在は新たな業態で、営業のマネジメントを行っている。
高校性アスリートのコンディショニング指導を業務とするところの営業を担当している。
営業は、練習試合の会場で先生に挨拶するところからはじまる。強豪校を狙っていく。団体競技が主であり、チームを応援するスタンスでやっている。





Q. 働くなかで感じるやりがいと、苦勞していることを教えてください。

やりがいも苦勞も、メンバーのパフォーマンス次第

<仕事で感じるやりがい>

思い描いたビジョンにそってメンバーが一丸となって動いているときは、本当にやりがいを感じる時です。

<苦勞していること>

逆に、思い描いていることが伝わらず、メンバーが動いてくれないときには苦勞します。

マネージャーの場合、やりがいも苦勞もメンバーのパフォーマンス次第であると痛感しています。

Q. 学生時代に学んだことと現在の職業の関係性について教えてください。

日常生活の中での疑問を、仮説検証して解決する習慣が活きている

どんな経験も活かされていると感じています。

学生時代もそうですが、映像を作る仕事は、人をセッティングする段取りなどの大事さを身につけました。関係者の調整や、配慮の仕方などは、今も活きています。

また、学生時代には、いろいろなことに疑問を持っていました。時間も多くあったので、日常の生活でも、疑問点があれば仮説をたてて検証する癖ができていたと思います。人気店の行列の理由を考えてそれを検証してみたり、そのような習慣は今の営業職でも活きていると感じています。



Q. 将来のキャリアイメージを教えてください。

会社と自分のキャリアを重ね合わせる

自分のキャリアを発展させることが、会社のキャリア発展になっている印象です。会社と自分のキャリアを重ね合わせて考えています。

会社の中期目標を達成させることが、当面の自分のキャリアにもつながっていて、会社は2020年には200名体制を目指しているので、事業の柱も自分自身が育てていきたいと考えています。

そのために、メンバーがより前向きに、気持ちよく働ける会社にしていきたいと思っています。

Q. 学生の皆さんに対してメッセージをお願い致します。

楽しい経験をして、プライベートを充実させる人が、社会でも伸びる

学生時代は時間があると思います。若いうちに楽しい経験をして、プライベートが充実している方が、社会に入ってから伸びていると感じます。

様々なアルバイトなどをして、社会との接点も作ってほしいと思います。世の中に無駄な仕事はありません。アンテナを高くして様々な経験をして良く考えることです。

また、若いうちから人前で話す機会は積極的に作った方が良いと思います。ゼミやサークル、団体を仕切っていた人材は成長が速いです。



Q. 就職した経緯について教えてください。

前職（商社）時代に、メーカーの強みを実感していた

大学卒業後、専門商社に新卒入社して、3年間在籍しました。しかし、ほとんど休みもない状況であり、結婚などのタイミングも重なったこともあり、体のことも考えて仕事よりもプライベートを重視したいという思いから転職をしました。

転職活動では、前職の商社時代に仕入れメーカーと関わるなかで、業界に関係なくメーカーの強みを実感しており、特に自社独自のフィルム製造メーカーという点に惹かれ、現在の会社への転職を決めました。

Q. 同じ職業の若手・中堅社員との違いとして、どのようなことがありますか。

鳥瞰的に物事を考えて、リーダーシップを発揮すること

会社全体を経営者の目線で見なければならず、ある一点だけではなく、鳥瞰的に物事を考えなければならないことが、大きな違いだと思いますね。

営業所のことだけを考えるのではなく会社全体のこと、客先のトップ・キーマンとの関係強化、経営者との協議、戦略の立案、会社の方針の検討、企業理念をメンバーに伝えて引っ張っていくといったリーダーシップを発揮することが求められていると認識しています。若手の頃は、営業所の売上のことだけを考えていれば良い部分がありましたが、年次を重ねていくうちに変化してきた点ですね。

[プロフィール]

Yさん 男性(40代)
営業課 課長代理
入社19年目(中途入社 商経学部卒)

[経歴]

大学卒業後、専門商社で3年間勤務したのち、現在の会社へ転職。

[現在の主な業務内容]

営業職として現場営業及び、課長代理として、九州営業所の経営管理を担当している。
また、職制会議である製販連携委員会の議長として、メンバーとともに製造部門、営業部門から上がってくる要望についての調整や会社との協議をしている。
さらに、職制会議である地域営業会議のメンバーとして、営業に関わる内容について会社との協議や、他営業所課との協議を実施している。





Q. 働くなかで感じるやりがいと、苦勞していることを教えてください。

仕事のやりがいに、会社の大小は関係ない

<仕事で感じるやりがい>

前職の会社は約1,500人の社員がいる会社でしたが、あまり面白みを感じることはなかったです。そうした環境から、入社時点では100人に満たない現在の会社へ転職してきましたが、経営者と直接話ができるアットホームな部分に驚きを感じ、また自分の成長と会社の成長を共に感じる事ができたという点で非常にやりがいを感じました。その気持ちは今も変わらず、仕事のやりがいに会社の大小は関係ないと思っています。

<苦勞していること>

会社も大きくなり、後輩が増えてくるなかで、若手の指導、営業所の管理等、求められることが多くなってきました。自分の立場に見合うような振る舞いができているかどうかは自問自答の毎日ですね。それだけ、責任ある立場に成長したんだなど実感しています。立場に見合う当たり前の苦勞をしているという認識です。

Q. 学生時代に学んだことと現在の職業の関係性について教えてください。

アルバイトの経験などは、営業職に活かされているかもしれない

大学の授業で学んだ内容が、直接的に仕事に活かしたことはあまりなかったですね。強いていえば、経済学をもっと学んでおけば良かったと後悔しています。ただし、人との繋がり、人との関わり方、親友と呼べる仲間との出会い、アルバイトでの商売の経験、企業での上下関係などは、学生時代にしかできないかけがえないものでしたし、営業職の仕事に私の場合は間接的には活かされているのかもしれない。



Q. 将来のキャリアイメージを教えてください。

—— 上位役職を目指すよりも、仕事の質を上げていきたい

より上位の役職へのチャレンジという点では、今の役職に対する責任を全うしている最中であり、上位の役職へのこだわりは特にはありません。ただし、仕事の内容については、今のままで良いというわけにはいかないのは当然であり、自身のスキルアップを積み重ねていこうと思っています。役職というよりも、仕事の質を上げていきたいという想いの方が強いです。そして、周りから認められる存在になっていくことを今は目標としています。

Q. 学生の皆さんに対してメッセージをお願い致します。

—— 仕事の面白さや満足感を見出すことにより、長く働きたいと思えるようにする

新卒のときは、周りの友人や親戚などの目線、親の意向・体裁などから、誰もが知っている大企業に入社したいという気持ちは強いと思います。私自身もそうでした。しかし、大企業＝自分にとって良い会社とは限りません。知名度や給与面だけではなく、仕事の面白さや満足感などを感じることができなければ長く働き続けることはできないのではないだろうかと思っています。

一方で、私の場合、前職(商社)での営業職の経験が、現在の会社でも営業職として働く上で、非常に役立っていることには感謝をしています。商社の営業職とメーカーの営業職では、仕事の内容(求められる振る舞い、スタンスなど)に大きな違いはありません。ただし、やはりメーカーは自分たちでモノを作っていることに最大の強みがあります。私はそこに惹かれました。ただし、個々人の考えには様々あるでしょうから、一概に商社が悪いというわけでは決してありません。

会社に入ってみなければ分からないことも多々あると思いますが、情報収集に努めて、そのなかで給与や福利厚生だけではなく部分にも目を向けてほしいと思います。仕事でのキャリアを重視したいのか、私生活とバランスをとった働き方をしたいのか、よく考えてから、進路の選択をすることも一つの手段としても良いと思います。

加えて、営業職では、お客さんに出す提案資料の作成のスキルを身につけておけば絶対的な武器になります。大学のレポートなどを活用して、見やすく、わかりやすい資料を作るスキルを習得しておくことをお勧めします。

職業紹介

介護サービスの職業



具体的な職業名

◆ここで紹介する職業は以下を含んでいます。

- 施設介護員
- 訪問介護職

(出所:「厚生労働省編職業分類」小分類より)

仕事の内容

◆さまざまな福祉団体や福祉施設などにおいて、利用者からの相談に応じ、必要な指導や助言を行います。

✓社会福祉士は、身体または精神の障害のために日常生活を営むことが困難な者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、必要な援助を行います。

✓介護福祉士は、身体または精神の障害のために日常生活を営むことが困難な者に、入浴、排泄、食事などの介護を行います。また、本人や家族に対して必要な介護に関する指導を行います。

✓ケアマネージャー(介護支援専門員)は、介護を必要とする人およびその家族からの相談に応じ、介護保険を利用した適切な介護が受けられるように、市町村、介護を行う事業者、介護施設などとの連絡調整を行います。

(出所:労働政策研究・研修機構(2004)『職業レファレンスブック』より、「その他の社会福祉専門の職業」)

関連資格

- ◆介護福祉士
- ◆社会福祉士
- ◆精神保健福祉士

(運営主体:公益財団法人 社会福祉振興・試験センター)

※厚生労働省 教育訓練給付制度「専門実践教育訓練」認定資格

働く人の姿

◆代表的な「介護サービスの職業」(福祉施設介護員)

- 労働者数:700,400人(男性:235,510人、女性:464,900人)
- 平均年齢:男性36.2歳、女性41.2歳
- 平均勤続年数:男性5.4年、女性5.9年
- 所定内実労働時間:165時間/月(20代:男性167時間/月、女性166時間/月)
- 超過実労働時間:3時間/月(20代:男性4時間/月、女性3時間/月)
- 平均賃金:219,700円/月(20代:男性213,700円/月、女性208,800円/月)

(出所:厚生労働省「平成26年賃金構造基本統計調査」内より、「福祉施設介護員」(企業規模10人以上の数値))

労働条件の特徴

✓老人や障害のある人のための施設などが主な職場であり、8割以上が老人福祉施設で働いています。特別養護老人ホームをはじめ、介護保険制度下にある老人保健施設・介護医療型施設(病院)でも多くの介護職員が働いています。

✓特別養護老人ホームの経営形態は、社会福祉法人経営による施設で働く人が9割、効率の施設で働く人が1割です。また就業者の7割以上が女性です。

✓介助の仕事は、寝たきりの人の体の向きを一定時間ごとに変えたり、ベッドから起こしたり、入浴の手伝いをしたい、身体を拭いたりするなど、体力が必要な動作が多いです。

(出所:ハローワークインターネットサービス「社会福祉施設介護職員」
<https://www.hellowork.go.jp/doc2/E36101syakaifukusisisetukaigosyokuinn.pdf>)



Q. 学生時代のご経験と就職した経緯について教えてください。

サークル活動に注力、大規模企画の実行委員長を経験

大学時代は、もともとロシアに興味があり、学科もロシア語を専攻していましたが、サークル活動もロシア研究会に所属し、ロシア経済や文学を研究しました。サークル活動を通じて、学外の関係者とも密なネットワークができました。

「ロシア語スピーチコンテスト」という大規模なイベントの実行委員長をしたのは非常に良い経験でした。ロシアの駐日大使を招いたりするなど、様々な調整があり、裏方の仕事の大変さもわかり、どんなことでも見えない人が支えているのだという社会の仕組みがわかったような気がします。

Q. 介護サービスには、どのような人が向いていると思いますか。

チームプレーができる人、助けを求められる人

利用者様が喜んでくれることが一番ですが、介護の仕事は、日々、一瞬一瞬で何が起きるかわかりません。どうしても一人では対応できないことも多くあります。そういうときは、無理に一人に対応しようとせず、大きな声で助けを求めることができる人の方がこの仕事には向いています。

また、逆に、助けを求める仲間がいたら、いつでも快く助けられるようなチームプレーができる人が向いています。

介護サービスは、利用者様と一対一の関係にあると思われがちですが、職場の仲間とのチームプレーによって成り立っていると感じます。

【プロフィール】

Hさん 女性(20代)

入社4年目

(第2新卒、文学部卒)

【経歴】

大学卒業後、生命保険会社に入社し、1年後退社、現在の介護施設に第2新卒として採用された。

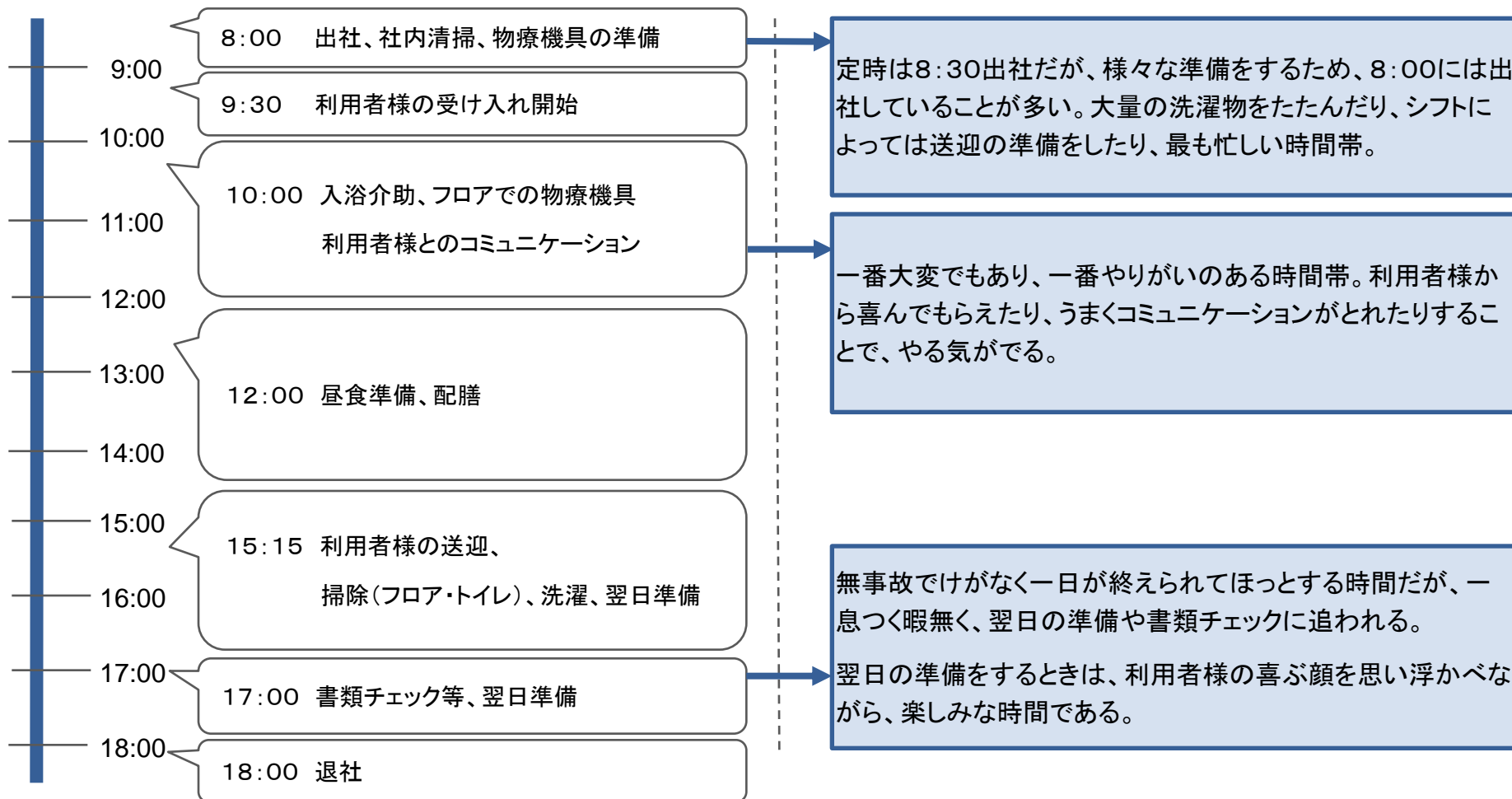
【現在の主な業務内容】

デイサービス利用者様の介護全般(送迎、入浴介助、排泄介助、食事サポート等)





Q. 1日の仕事のスケジュールを教えてください。





Q. 働くなかで感じるやりがいと、苦勞していることを教えてください。

利用者様とのコミュニケーションや喜ぶ笑顔がやりがい／日々の仕事量は想像以上

<仕事で感じるやりがい>

まずは、利用者様が無事故で怪我なく帰宅できることが前提ですが、利用者様と意志が通じ合って、楽しいと心から思えてお互いが笑顔になる瞬間、この瞬間は、介護サービスでしか味わえない瞬間ではないかと思えます。この瞬間を何度も味わうためにこの仕事を続けていきたいです。仕事の満足度は非常に高いと思えます。

<苦勞していること>

一人で何人もの利用者様を相手にしなくてはいけないときもあり、突発的な対応も多く、日々の仕事量は想像以上です。

Q. 学生時代に学んだことと現在の職業の関係性について教えてください。

学ぶことに集中できる時間は貴重

大学で学んだことは、直接、現在の職業に関係はないと思えます。あえていえば、文学部なので、書物や語学の話などは、利用者様と話をするときの引き出しとして豊富にあるので、役には立っています。ただし、社会に出てからの方が毎日仕事をしながら勉強をしている感じがします。働きながらの勉強は大変ですが、身になっている実感があります。

学生時代は、何を学ぶかというよりも、学ぶことに集中することが必要です。学ぶことに集中できる時間は社会に出たらほとんどありません。学生時代は好きなことに没頭して学ぶことができる貴重な時間だと思います。



Q. 将来のキャリアイメージを教えてください。

介護福祉士、ケアマネージャーへと段階を踏んでいきたい

まずは、経験を積んで、介護福祉士、ケアマネージャーと段階を踏んでステップアップしたいです。日々、イライラすることもあれば、心から楽しいこともあって、それを支えてくれているのが職員の仲間同士だと思います。良好な職場環境をさらによくするために、自分自身も貢献したいと思います。

10年後くらいには、結婚して、子どもがいて、子供を育てながら、週3くらいで介護職ができればいいなと漠然と考えています。そのためにも今がんばりたいですね。

Q. 学生の皆さんに対してメッセージをお願い致します。

何をするにしても真剣に！

働かなくてはいけない時は必ずくるので、好きなことをすれば良いと思います。

ただし何をするにしても真剣に！どんなことでも真剣にやれば、必ず役に立ちますし、自信につながります。

勉強だけでなく、留学をしたり、サークル活動やアルバイトでもいいでしょう。真剣にやることです。

社会人と接することができるアルバイトは、自然と社会の仕組みの勉強ができますので、今も役立っていると感じます。





Q. 学生時代のご経験と就職した経緯について教えてください。

—— 祖父母の介護をする両親の姿をみて、介護職に興味をもった

学生時代は、商学部所属でしたが、他学部の授業を含めて幅広い授業を履修していました。特にメディア論の授業が印象深く、ニュース報道など世の中で起きていることに対して興味を持つようになりました。

進路の選択にあたり、私にとっての祖父母を介護している私の両親の姿を見て、介護職に興味をもったことから、介護の仕事を目指しました。ホームヘルパーをやっている友人もおり、介護が身近な環境であったことが影響していると思います。

Q. 同じ職業の若手社員との違いとして、どのようなことがありますか。

—— 自分の業務にかかわる責任の度合い

利用者様の命を預かっているお仕事であるため、センター長として、どのような場面においても自分の業務に関わる責任の度合いの大きさは違いの一つです。

また、ご家族・ケアマネージャーなど関係各所や職員への対応でも、求められる役割が異なっており、視野を広くもって業務にあたることが求められます。

ただしその分、若手の頃に比べて、排泄介助や食事のサポートなどの介護業務はセンター長になってから減っています。その点では、介護の現場にはいますが、最前線からは少し離れているといえます。

【プロフィール】

Tさん 男性(30代)
センター長 入社8年目
介護福祉士 社会福祉主事
(新卒入社(パート→正社員登用)商学部卒)

【経歴】

大学卒業後、現在の介護施設にパートとして採用され、1年半後に正社員に登用される。その2年後、20代後半でセンター長に就任。

【現在の主な業務内容】

利用者様の介護全般(送迎、排泄介助、食事サポート等)に加えて、センター長として、利用者様のご家族・ケアマネージャーなど関係各所との連携や、職員のシフト管理や書類作成、経費確認など事務業務全般を担う。





Q. 働くなかで感じるやりがいと、苦勞していることを教えてください。

——— 直接「ありがとう」が聞くことができること／臨機応変な対応が日々求められること

<仕事で感じるやりがい>

人からストレートに「ありがとう」と言ってもらえる仕事は、あるようでなかなかないかもしれません。介護の仕事は、まさに直接人を相手にする仕事ですので、感謝の気持ちをその人から直接聞けることは本当に嬉しくなります。また、利用者様は、人生の先輩であり、いろいろな話を聞けるので日々勉強になることもこの仕事の魅力です。センター長としては、何事もなく1週間が無事に終わったとき、安堵の気持ちに包まれます。

<苦勞していること>

毎日同じ業務をしているようで、実は毎日違った、その場に適した対応をしなければならないことが大変です。利用者様のおひとりおひとりに個性がありますし、認知症の方でも日によって症状の現れ方が違います。そうした違いをいち早く察知して、臨機応変に対応することは、人を相手にするこの仕事の難しいところです。

Q. 学生時代に学んだことと現在の職業の関係性について教えてください。

——— 介護の勉強はしていなかったが、「今思うとあの授業を受けていたから」と思うときがある

学生時代は、商学部ということもあり、介護に関する勉強はほとんどやっていませんでした。ただ、利用者様との会話のネタや、コミュニケーションの取り方などは、授業を受けた結果興味が湧いて自分なりに勉強した内容や、接客業のアルバイトの経験での立ち振る舞いが活きていると思います。「今思うとあの授業を受けていたから、あのアルバイトの経験があったから」と仕事をしていて思うことがあります。



Q. 将来のキャリアイメージを教えてください。

通所介護だけではなく、ショートステイ事業など他事業への挑戦も選択肢の一つ

役職という面では、当社にはセンター長の上級職として、2～3のセンターを統括する「エリアマネージャー」という役職があるので、そこに向けてステップアップしていくことを考えています。また、現在は通所介護（デイサービス）という形態ですが、介護支援専門員（ケアマネージャー）、社会福祉士などの資格を取った上で、ショートステイなど事業拡張に挑戦することも選択肢の一つではないかなと思っています。

いずれにせよ、現在の会社に所属していることが前提で、独立することは今のところ考えていません。パートから入社して、正社員登用され、センター長にまで育ててもらい、キャリアアップさせてもらえた会社なので、この会社に貢献したいと思っています。

Q. 学生の皆さんに対してメッセージをお願い致します。

無駄と思えるものにも一生懸命に取り組むことで、それがその人の「引き出し」になる

無駄と思えるものにも一生懸命に取り組むことで、社会に出てからそれがその人の「引き出し」となり、実際の仕事の中の思いがけない場面で活かすことができる 때가きっと訪れます。学生時代は、研究、遊び、アルバイトなど、これらに対して時間をかけてじっくり取り組める貴重な時期ですから、この時間を大切にしてください。

介護の仕事は、もちろん大変なこともあります。排泄の処理もしますし、命を預かる仕事ですので責任も伴います。ただ、最初は大変と思う業務も次第に慣れてきますし、かえって自分の家族ではないからこそ、仕事としてしっかりと向き合えるという良さもあります。また、通所介護は夜勤がないので、ワークライフバランスを取りながら仕事をしていくことができるでしょう。





Q. 就職した経緯について教えてください。

—— 家族を失った経験から、人生の幕引きを手伝いたいと思った

大学卒業後、一般的な企業で事務職に従事し、いわゆるOLをしていましたが、女性ということもあり、キャリアアップがなかなか見込めないなかで、このまま同じ仕事を続けることに疑問を感じていました。そんなとき、家族が倒れてしまい、相談できる専門家が近くに誰もいなかった経験をしました。そこで、自らが専門家となり、人生の幕引きのお手伝いがしたいと思い、社会福祉士資格を取得しました。

転職は難しさもありましたが、訪問介護の専門員からキャリアを始め、有料老人ホームの施設長、現在当社のセンター長へというキャリアを歩んできました。女性とはいえ、こうして管理職として働けていることに非常に満足しています。

Q. 同じ職業の若手・中堅社員との違いとして、どのようなことがありますか。

—— 施設の利用者さんへの関わり方のレパートリーが広がる

介護職員は、利用者さんとの関わり合いにおいて、台本のない芝居をしなければならないと思っています。そうした利用者さんとの関わり方のレパートリーは、経験を重ねれば重ねるほど広がっていくため、そこが若手・中堅社員との一番の違いだと思います。不穏になっている方の話を聞き、落ち着かせることができるのはやはりベテランの域だけかもしれません。

またセンター長として、従業員、利用者さんとその家族など、センターに関わるすべての人から信頼してもらうため、常にアンテナを張っています。こうした気配りをしながら全体を見渡すという仕事を、個人的には楽しくやらせてもらっています。

[プロフィール]

Kさん 女性(60代)
デイサービスセンター センター長
兼エリアマネージャー 社会福祉士
入社7年目(介護職自体は17年目)
(中途入社 社会学部卒)

[経歴]

大学卒業後、企業で事務職を経験後、独学で社会福祉士資格を取得し、介護業界へ転職。

[現在の主な業務内容]

デイサービスセンターの利用者さんへの対応もしつつ、センターの管理者として、従業員の評価を含めてセンター全体の運営を担当。





Q. 働くなかで感じるやりがいと、苦勞していることを教えてください。

「3K」は介護の仕事のごく一部にすぎない、目の前の人のために役立てていると実感できる

<仕事で感じるやりがい>

介護の仕事は3K(きつい、汚い、危険)といったイメージがありますが、それは介護の仕事のごく一部にすぎません。それ以上に、目の前の生身の人を相手にした仕事であり、人のために役に立っていることを強く実感することができます。例えば、認知症の方でも、親身になって対応し続けることで、相手から直接答えが返ってきたときは、想いが伝わった喜びを感じることができます。

また、介護の仕事をすることで、人生の先輩から貴重な知恵を教えられたり、自分もいずれそうなる時期がくるということを目の当たりにでき、「これからの人生をどのように生きていくか」を考え、自分を見つめ直すきっかけも与えてくれるため、まさに人生勉強にもなる仕事です。

<苦勞していること>

民間企業として一定以上の利益を上げ、一生懸命働いている従業員の給与を上げたり、スタッフを拡充したいと思いますが、一方で、介護保険等による公費で運営している事業でもあるので、その間での調整が難しいです。介護業界全体として、給与水準アップ等、労働条件の改善が求められます。

Q. 学生時代に学んだことと現在の職業の関係性について教えてください。

自分の専攻の知識を積み上げることが、自分の強みになり、将来の自分を作る

社会福祉学科卒業なので、大学時代に学んだことと、現在の仕事は関連しているといえます。一方で、前職の事務職は、全く関係のない仕事でした。

このように、大学で学んだ内容が仕事に活かせるケースは限られていることも少なくないと思いますが、大学では自分の専攻の知識を積み上げることが大事だと思います。そうすることで、どのような仕事に就いたとしても、何らかの形で生きてくる場面が訪れ、さらに積み上げた知識が、社会人経験という実践を繰り返す過程で、より研ぎ澄まされていき、自分だけの強みになり、自分を作っていくことになると思います。



Q. 将来のキャリアイメージを教えてください。

次世代の介護業界を担う人材を育成したい

センター長という立場で、さらに上位の役職としては経営層くらいですが、あまり関心はないですね。現在の仕事をまっとうしたいという思いが強いんです。定年後は、この業界を離れて、趣味に生きたいと思っています。定年後もボランティアとして介護業界に携わる方法もありえますが、次世代の方々に担ってほしいという気持ちがあります。定年時に、やり残しや思い残しがないように、今まさに次世代を担う介護職員の育成に取り組んでいます。

Q. 学生の皆さんに対してメッセージをお願い致します。

介護の仕事を通して、その人の「生き様」をみることができ、自分自身を見つめ直せる

学生さんの中には、介護職に対してあまり良いイメージをもっていない人もいるかもしれません。以前、私もそうでした。

しかし、介護の仕事は、高齢者の方と接することを通して、それぞれの方の生き様をみることができる非常に魅力的な仕事です。多くの人の生き様を目の当たりにすることがきっかけとなり、自分自身を見つめ直すことができますし、さらに目の前の方々に、生きてて良かったと思ってもらえるように手助けをしたいという活力が湧いてきます。

そうした、自分自身を見つめ直すという経験は、ぜひ学生時代にも経験してほしいと思っています。具体的には、自分はどのような人間なのか、何が好き／嫌いなのか、なぜ好き／嫌いなのか、というように深掘りすることで見えてくるものが、きっと進路選択の際に指針となります。

そしてそうして真剣に向き合った自分自身を大事にして下さい。特に直接、生身の人同士が触れ合う介護の仕事をするためには、まずは自分自身を大事にしなければ、他の人へも優しく接することができませんから。





具体的な職業名

◆ここで紹介する職業は以下を含んでいます。

- システムコンサルタント
- システム設計技術者
- 情報処理プロジェクトマネージャー
- ソフトウェア開発者
- システム運用管理者
- 通信ネットワーク技術者
- その他の情報処理・通信技術者

(出所:「厚生労働省編職業分類」小分類より)

仕事の内容

◆コンピューターのハードウェアやソフトウェア、通信システムなどを組み合わせたコンピューターシステムを設計、構築、保守する仕事です。

✓企業などにおいて、事務処理、生産管理などの分野でコンピューターシステムを導入するときに、対象業務における情報の流れや情報量を調査分析したうえで、その業務に応じたシステムの概要設計書などを作成します。

✓システム設計では、業務内容や情報量の規模に応じたコンピュータの容量・処理能力を設定するとともに、通信機器、コンピュータ、周辺機器及びソフトウェアを選びます。また、新たに開発するプログラムの仕様設計も行います。

(出所:労働政策研究・研修機構(2004)『職業レファレンスブック』より、「システムエンジニア」)

関連資格

- ◆基礎情報技術者
- ◆応用情報技術者

(運営主体:独立行政法人 情報処理推進機構)

※厚生労働省 教育訓練給付制度「専門実践教育訓練」認定資格

働く人の姿

◆代表的な「情報処理・通信技術者」(システム・エンジニア)

- 労働者数:324,060人(男性:263,340人、女性:60,720人)
- 平均年齢:男性36.8歳、女性33.5歳
- 平均勤続年数:男性10.0年、女性8.6年
- 所定内実労働時間:156時間/月(20代:男性157時間/月、女性156時間/月)
- 超過実労働時間:22時間/月(20代:男性21時間/月、女性20時間/月)
- 平均賃金:375,000円/月(20代:男性276,900円/月、女性291,350円/月)

(出所:厚生労働省「平成26年賃金構造基本統計調査」より、「システムエンジニア」(企業規模10人以上の数値))

労働条件の特徴

✓プロジェクト単位で働くことが多い仕事です。また仕事の場所もシステム構築の工程段階やシステム環境、取り扱う顧客の機密情報の扱いなどによって、自社の事業所や顧客の事業に常駐したりと異なります。

✓労働時間は、プロジェクトの忙しさの状況(繁閑)によって異なります。特に、開発しているシステムを顧客に納める直前には忙しさもピークとなり、トラブルへの対応なども発生します。

✓裁量労働制を採ることも少なくなく、何時間働いたかではなく、仕事の目標に対する成果によって給与や昇進・昇格が決まるようになってきます。

(出所:ハローワークインターネットサービス「システムエンジニア(ITアーキテクト)」https://www.hellowork.go.jp/doc2/B10201sisutemuennjinia_ITa-kitekuto.pdf)



Q. 学生時代のご経験と就職した経緯について教えてください。

—— 学生時代は同一のアルバイトを4年間継続

4年間、コンビニエンスストアと居酒屋でアルバイトを継続しました。また、2年間、大学祭実行委員を務め、パンフレット作成等の編集業務を主に担当しました。

現在の職業に就いた経緯は、現在は、IT関係の仕事が重要視される時代であり、そこに自分も参画したいと思ったからです。クライアントのデザインを構築(カスタマイズ)したいという想いがありました。

Q. 情報処理・通信技術者には、どのような人が向いていると思いますか。

—— IT業界の人は、「プログラムを作る人」だけではなかった

入社前の、学生時代の頃は、「IT業界の人＝プログラムを作る人／コードを組む人」だと思っていました。同様に、業務もパソコンに向かい続ける業務のみだと思っていました。

しかし、実際入社して働き出してから、そうしたイメージは覆されました。もちろんプログラムの作成なども業務ですが、この仕事は、機械よりもむしろ、人と上手にコミュニケーションを取れるかどうか非常に求められる仕事です。意外かもしれませんが、「機械が好きの人」ではなく、「人が好きな人」がIT業界には向いていると思います。

また、入社半年後から本社ビルを離れて、取引先企業のコールセンターで業務をしました。この経験から、一つの企業のなかにも、目に見える業務だけでなく、それに付随するたくさんの仕事があり、それに多くの方が関わっていることを知ることができました。

【プロフィール】

Kさん 女性(20代)
アクティブサポート事業部所属
入社3年目(2012年3月 情報学部卒)

【経歴】

2012年4月入社。入社半年後、プリンター等を扱う企業でのコールセンター業務に従事。出戻り後、現在の事業部に所属。

【現在の主な業務内容】

Webコンテンツを使った企業プロモーションや人材育成事業が主な業務。

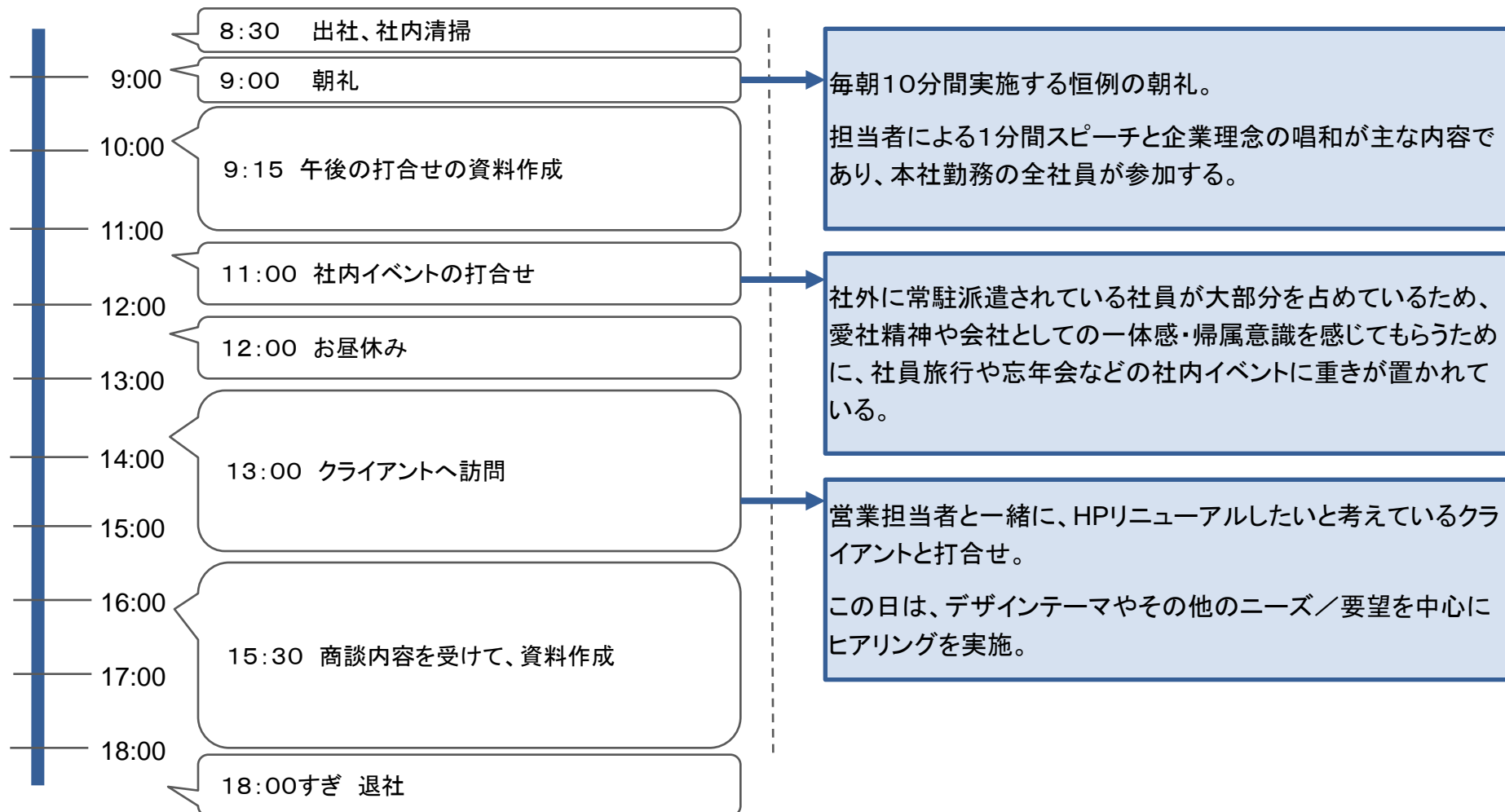
具体的には以下の業務に従事している。

- ・HPのデザインの提案・作成
- ・企業キャラクターの公安・チラシの作成
- ・SNSを用いた企業プロモーションの提案等。





Q. 1日の仕事のスケジュールを教えてください。





Q. 働くなかで感じるやりがいと、苦勞していることを教えてください。

挑戦することで成長を感じさらに挑戦できる／短期間での必要なスキルの習得が求められる

<仕事で感じるやりがい>

新たなことにチャレンジすることで知識・技術が身につく成長を感じ、さらに新しい仕事へと挑戦することで、業務の幅が広がっていくことですね。「これをやりたい」と言えば、仮にそれを遂行するための十分な知識を有していなくても、それに反応してサポートしてくれる人がいることに気がつきました。

<苦勞していること>

短期的に必要なスキルを身につけなければいけないことです。ですが、これはやりがいと表裏一体で、やりたいことをやれる楽しさを感じています。また、社会人生活における体調管理・生活改善は課題の一つです。

Q. 学生時代に学んだことと現在の職業の関係性について教えてください。

突然、大学で学んだことが生きる機会が訪れるときがある／アルバイトは大人と関わる機会

<大学で学んだこと>

入社当時は、大学の知識はほとんど役に立たないと思っていましたが、急に関連する仕事舞い込んでくることもありました。どこでどのように大学時代の知識が役立つかわからないため、大学での学び・知識の吸収については、質も量も貪欲に求めて身につけた方が良いと思います。

<アルバイトの経験>

コンビニでは、1人で多くの仕事をこなす必要があり、そこでマルチタスクを回していく術や時間配分をどうするかなどの力が鍛えられたと思います。お客様第一主義という考え方も植えつけられました。初対面の人とのコミュニケーションの方法も身につけることができたと思います。

居酒屋では、接客業務を通して大人(社会人)と関わる機会がもて、自然と社会人と接するときのマナーなどが身につきました。



Q. 将来のキャリアイメージを教えてください。

子育てをしながら働くために、自前で制度を確立したい

子どもを産み、親となりながら、仕事を継続したいです。ただし、子どもがいる状況で、現在の働き方を続けるのは難しいと思います。そこで、現在の会社で、在宅勤務ができる制度を整えることを目指したいと考えています。

具体的には、5年後、在宅勤務制度確立に向けて社内への提案等の働きかけを行い、10年後、自分自身がつくった制度で、在宅勤務をしたいですね。

Q. 学生の皆さんに対してメッセージをお願い致します。

3年続けると、仕事の全体像が広がって見えるタイミングが訪れる

入社3年目ですが、挑戦して無駄になったことはないと思います。学生の皆さんは、個々の仕事を別々に考えているかもしれませんが、社内での全ての仕事は関連しており、IT業界とはいえ、IT業務だけで動いているわけではありません。IT＝プログラマーという固定観念をぜひ変えてもらいます。

また、短期間で離職してしまう人もいますが、「石の上にも3年」を意識して、どんなことでも一度挑戦して3年がんばってみたいと思います。3年続けると仕事の全体像が広がって見えるタイミングがあります。どの業種に就職しようが、自分の興味・関心がある分野と何らかの繋がりがあるはずです。そうした意味でも、現在の業務との関係の強弱は別として、「自分がやりたいこと」を周囲に伝えておくことは非常に重要だと思います。私自身、元々やれるとは想像もしていなかった自分がやりたかったことに、結果的に現在は取り組めており、非常に満足しています。



Q. 就職した経緯について教えてください。

きっかけは偶然、飛び込んでから考えようと腹を括った

20代後半はラーメン店を営んでいましたが、体力的に厳しいと感じ、ぼんやりと転職を考えていました。ITブームもあったので、IT業界は気になっていました。ちょうど何気なくテレビを見ていたら、プログラマーのドキュメンタリー番組をやっていて興味をもったところ、人材紹介会社の営業マンが、今の会社を紹介してくれました。

動機も曖昧で、きっかけも偶然だったので、やっていけるか不安でしたが、とにかく飛び込んでみてから考えようと腹を括り、就職を決めました。

Q. 同じ職業の若手社員との違いとして、どのようなことがありますか。

仕事の全体をみること、みんなが気持ちよく働ける雰囲気作り

技術的には、若手と変わりません。

ただし、同じ仕事であっても、常に全体をみて、どの部分の仕事をしているかを意識しています。そうすると、些細な変化やミスも早期に発見できて、効果的な対応が可能になります。

クライアント(取引先)の職場で仕事をすることが多いのですが、リーダーとして、社員同士がバラバラにならないよう、互いに声をかけながら、メンバーが気持ちよく働ける雰囲気を作るように心がけています。

【プロフィール】

Mさん 男性
ITサービス事業部 リーダー
入社8年目(中途入社 高卒)

【経歴】

高等学校卒業後、地元の梱包会社に入社し、タコ焼き屋、ラーメン店主等を経験した後、2007年に現在の会社に入社。

【現在の主な業務内容】

システムエンジニア(SE)として、システム開発・設計の業務を行っている。クライアント先に常駐しながらのシステム開発が主。
また、現場のリーダーとして、クライアント先で業務を行う社員を束ねており、現場での社員のマネジメントなども行っている。





Q. 働くなかで感じるやりがいと、苦勞していることを教えてください。

システムエンジニアとしてのやりがいと人を育てるやりがいがある

<仕事で感じるやりがい>

システムエンジニアとして、自分がシステムを開発したシステムが稼働した瞬間の気持ちはたまりません。

今は、リーダーとして、若手の成長をみるのが大きなやりがいです。何もわからずに入ってくる新入社員が、3年後には堂々として、発する言葉も変わります。社会人としての責任や立ち向かう力が備わっていて、そういう姿をみることに大変なやりがいを感じています。

<苦勞していること>

取引先からの依頼と、メンバーの考えが食い違うときに、調整に苦勞します。コミュニケーションの重要性を身にしみています。

Q. 学生時代に学んだことと現在の職業の関係性について教えてください。

苦勞した後の成功体験などは社会に出てからの支えになる

一つのことに粘り強く打ち込むことの達成感や、苦勞をした後の成功体験などを味わっておけば、その体験が社会に出てからの支えになります。

IT関連の仕事も、当初は自分ができるとは思わなかったのですが、まずはやってみて、少しずつ背伸びをしながら習得してきました。今はどんな仕事も大丈夫という自信があります。まずは飛び込んでみるのが重要だと思っています。



Q. 将来のキャリアイメージを教えてください。

より高度な仕事をすることで、自分もメンバーと一緒に成長したい

今後は、より高度な仕事をチームで担えるように発展させていきたいと思っています。自分の成長もそうなのですが、将来的には、メンバーと一緒に成長していきたいと思っています。

これからのIT業界は、設計や計画に時間をかける傾向が強くなってきます。取引先やメンバーとのコミュニケーションを一層重視して、一丸となって取り組んで、会社、業界の発展ができればよいと思っています。

Q. 学生の皆さんに対してメッセージをお願い致します。

多様な経験をすること、多様な人々と接すること

IT業界に就職したいからといって、学生時代にプログラムの勉強をする必要はありません。プログラムの知識は現場で身につくもので、むしろ、これからは、システムエンジニアであっても、多様な人々とコミュニケーションをとれることの方が大事です。当社でも若手の育成をするときに、細かいITの知識は教えませんが、細かい話は現場で教えてもらうようにしています。

以前あったような、IT業界は長時間労働だというイメージも、随分変わりました。事前にしっかり設計し計画されますので、効率的ですし、ワークライフバランスも充実できると思います。

システムを設計するのは、家をたてるのと同じです。家をどうたてるか、設計できる社会人になってほしいと思います。相手の思いを斟酌できて、適切な対応ができるコミュニケーションスキルが必要です。



Q. 就職した経緯について教えてください。

—— これからはIT業界が発展すると見込んでいた

10年前、職探しをしているとき、手に職をつけたいという想いがありました。また、今後IT業界が発展すると見込んでいたということもあります。こうした理由からIT業界を選びました。

さらに、IT業界の中でも、現在の会社を選んだ理由は、あまりIT企業らしくない雰囲気があったためです。IT技術者＝ガリガリとプログラムを書くというイメージが覆されました。

Q. 同じ職業の若手・中堅社員との違いとして、どのようなことがありますか。

—— 売上の責任、部下への配慮

売上の責任を負うことが一番に挙げられます。

また、マネージャー職として、社員と契約企業の橋渡しの役割を担い、両者からの要望やクレームに対応しています。組織の潤滑油としての機能を果たしているといえます。

部下の指導や評価をするにあたって、コーチングの手法を取り入れた労務懇談も実施しています。10年間で私自身が経験した仕事での辛い経験を、部下たちが繰り返さないために、マネジメント側として工夫をしながら対応しています。

[プロフィール]

Mさん 男性(30代)
ITサービス事業部 マネージャー
入社10年目(中途入社 専門学校卒)

[経歴]

専門学校卒業後、バント活動、家具作り、海外でのホームステイなどを経験した後、2005年に現在の会社に入社。

[現在の主な業務内容]

事業部のマネージャー(部長)として、社外に常駐派遣されている事業部員(45名程度)への各種支援・フォローなどマネジメント。
社員と契約企業の間には、両者の橋渡しの役割を果たす。社員・契約企業それぞれからの要望や悩みを吸い上げてフィードバックを行う。





Q. 働くなかで感じるやりがいと、苦労していることを教えてください。

やりがいと苦労が表裏一体となっている

<仕事で感じるやりがい>

自分の仕事の内容が、会社の経営に直結している点にやりがいを感じています。

<苦労していること>

マネジメント職は初めての経験であるため、毎日がチャレンジの連続で、失敗も重ねながら取り組んでいます。そうした試行錯誤を繰り返しながらの経験は苦労でもあり、同時にやりがいでもあり、表裏一体となっています。

また、成長段階にある企業のため、所々で「成長痛」も発生し、それへの対応に追われることも大変な点です。

Q. 学生時代に学んだことと現在の職業の関係性について教えてください。

人との上手な付き合い方やビジネスマナーは仕事に活かされている

中学生時代: サッカー部に所属していましたが、怪我をしてしまった際に、その怪我と向き合うことができず、自分自身が諦めやすい性格であることに気づき、自分の弱点を知ることができたと思っています。

高校生時代: 気難しいクラスメイトがいましたが、彼らと良い関係を築くことができ、クラス内での自分のポジションを確保することができた経験をしました。そこでは、人との上手な付き合い方を身につけることができたと思っています。

専門学校時代: ビジネスマナーやタイピングの授業で学んだことは、現在の業務にも非常に役立っています。特にビジネスマナー講師は元キャビンアテンダントの方であり、ビジネスマナーを叩き込まれました。



Q. 将来のキャリアイメージを教えてください。

会社の発展と自分のキャリアの発展は連動している

5年後：役員⇒10年後：社長業（社員社長などの形も想定）⇒20年後：自社ビルの建築⇒25年後：海外進出を目標にしています。

現在の職場からの転職は考えておらず、会社の発展と自分のキャリアの発展を連動して考えています。そのように考えた方がこれからやりたいことがたくさん想像できて面白いですね。

Q. 学生の皆さんに対してメッセージをお願い致します。

チャレンジする選択をすることで、今の自分がつくられてきた

自分が働く上で意識していることは、「NOと言わない」ということただ一つです。過去、大手携帯電話会社から、「今の自分には必ずできない」仕事が降ってきましたが、「はいやります」と答えてチャレンジしました。そのチャレンジでは、失敗やストレスからくる体調不良など辛い経験をしました。そうした辛い経験や想いをすることが必要だということではありませんが、その経験がなかったら現在の自分につくられなかったと自負しています。

自分のキャリアからいえることは、分かれ道や分岐点の選択のときに、チャレンジする選択肢を選んでほしいということです。前向きな選択肢を取ること、人生は好転すると信じています。

さらに、誰もやりたがらないような仕事を率先してやることで、周りからの信頼を得ることができると思っています。



具体的な職業名

◆ここで紹介する職業は以下を含んでいます。

- 食品製造技術者
- 電気・電子・電気通信製造技術者(通信ネットワークを除く)
- 機械製造技術者
- 自動車製造技術者
- 輸送用機器製造技術者
- 金属製錬・材料製造技術者
- 化学品製造技術者 など

(出所:「厚生労働省編職業分類」小分類より)

仕事の内容

◆原動機や工作機など広範な機械器具・機械設備に関する設計・開発・製造・検査・試験・試験・据付け・改造・修理などの技術的な業務に従事します。

✓まず、市場ニーズや使用目的をふまえて品質や性能を明確化し、使用を決定します。設計にあたっては、所定の性能、強度、耐用年数などの仕様を満たすように考慮します。さらにコストの節約や円滑な生産を確保するために部品の標準化をはかり、材料や加工法を選択し、設計図や生産図面を完成させます。試作機を製作しさらに改良を重ねることもあります。

✓加工・組立などの製造部門においては、専門的な知識や経験に基づいて工程管理を行い、職長や技能工などの指導・監督を行います。

(出所:労働政策研究・研修機構(2004)『職業レファレンスブック』より、「一般機械技術者」)

関連資格

- ◆電気工事施工管理技士
- ◆建築施工管理技士 など

(運営主体:一般社団法人 建設業振興基金)

※厚生労働省 教育訓練給付制度「専門実践教育訓練」認定資格

働く人の姿

◆代表的な製造技術者(技術士)

- 労働者数:59,340人(男性:55,930人、女性:3,410人)
- 平均年齢:男性42.5歳、女性35.7歳
- 平均勤続年数:男性14.2年、女性12.5年
- 所定内実労働時間:168時間/月(20代:男性167時間/月、女性166時間/月)
- 超過実労働時間:16時間/月(20代:男性20時間/月、女性7時間/月)
- 平均賃金:375,300円/月(20代:男性268,300円/月、女性222,150円/月)

(出所:厚生労働省「平成26年賃金構造基本統計調査」より、「技術士」(企業規模10人以上の数値))

労働条件の特徴

◆ここでは代表的な製造技術者を取り上げます。

✓商品開発部:他の部門と比べ、より高い能力や企画力、経験が必要とされるため、年齢層は30-40歳代が中心となっており、一般的に社員全体の1-2%を占める程度といわれます。データの分析や企画書の作成といったデスクワーク以外に、生産地や仕入れ先への出張、販売実験のための店舗巡回、海外出張、市場の観察など外での仕事が多く、量的にも時間的にも厳しい職業といえます。

✓自動車技術者:自動車技術者の多くは自動車メーカーに勤務しています。雇用形態はほとんどが正社員です。工場が海外にある場合も多いため、勤務地は国内だけにとどまらず海外へ転勤することもあります。

(出所:ハローワークインターネットサービス「商品開発部員」及び「自動車技術者」
<https://www.hellowork.go.jp/doc2/C25302syouhinnkaihatubuinn.pdf>
<https://www.hellowork.go.jp/doc2/B07401jidousyagijutusya.pdf>)



Q. 学生時代のご経験と就職した経緯について教えてください。

—— 学生時代の研究活動にやりがいを感じ、研究職への転職を決意

大学学部の前半はサークル活動(生協学生委員会)、後半から大学院の期間は研究活動(素材開発)に力を注ぎました。

大学院修了後に就職した仕事は、業種の特性上、深夜帯・長時間の勤務体系であり、結婚・第一子誕生を機に転職を決意しました。その際に、学生時代に没頭していた研究活動にやりがいを感じていたことから、研究開発職への転職を目指しました。

Q. 製造技術職には、どのような人が向いていると思いますか。

—— 考えることが好きな人、周囲と積極的に働きかけができる人

技術職としては、単に理系の知識だけを持っていれば良いということではなく、周囲と積極的に意見交換や働きかけができることが求められます。

せっかく良いアイデアがあったとしても、的確に周囲に伝えることができなければ、そのアイデアが活かされず、結果的に非常にもったいないことになってしまうからです。

前職は学習塾講師であり、職務内容的な連続性はほとんどありませんが、人に伝えるという点で前職の経験が活かせる可能性があるかもしれません。例えば、現在は研修の内容について改善点の提案を行っており、今後は、工場と本社との橋渡しやクライアントへの提案の場面などに活かせたらと考えています。

【プロフィール】

Uさん 男性(30代)

技術開発課所属

入社1年目(2014年8月入社 農学研究科卒)

【経歴】

前職は約3年間塾講師を経験。

転職活動後、2014年の夏に、現在の企業へ就職。

【現在の主な業務内容】

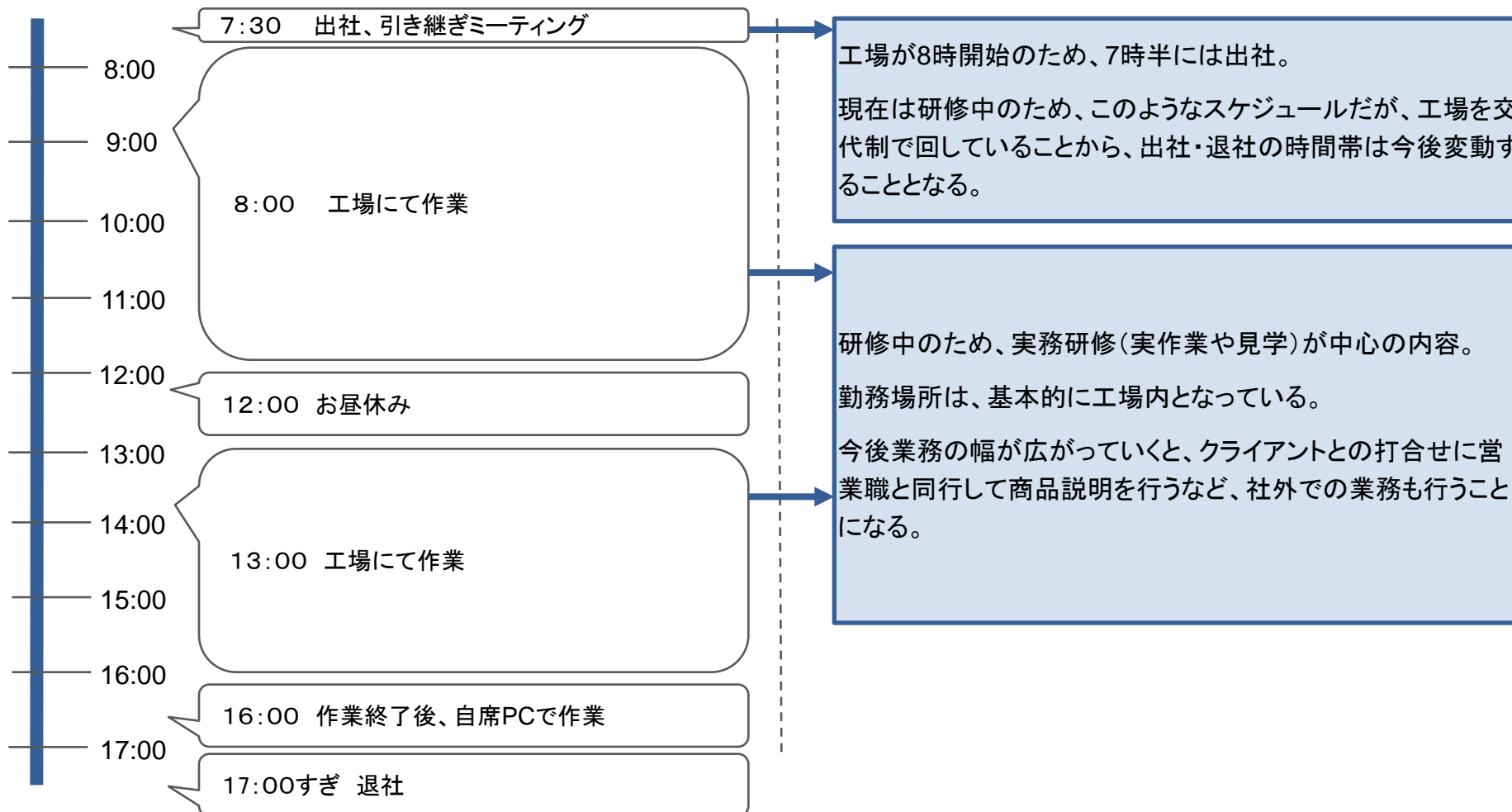
インタビュー実施時は、研修期間中であり、工場における実務研修(実作業や見学)が中心。

今後、技術開発課に本配属され、新しい機能をもつ素材の製造等に従事する予定。





Q. 1日の仕事のスケジュールを教えてください。





Q. 働くなかで感じるやりがいと、苦勞していることを教えてください。

自分の手や頭で新しい価値を生み出すことができること／経験・知識の不足

<仕事で感じるやりがい>

自分の手や頭で新しい価値を生み出すことができることに強いやりがいを感じています。そうした新しい価値を創造するための理論や技術を、当社は有していると思っており、そこに自分が何らかの付加価値を提供していくことができれば、とても光榮に感じますね。企業理念でも謳われている通り、年次や所属に関係なく、良い意見であればそれを認めてもらい、実際に商品開発などに繋がることにも魅力を感じています。

<苦勞していること>

入社してまだ間もないため、経験や知識の不足を感じています。具体的には、フィルムに関わる化学の知識と、工場内の機械に関する知識を身につけたいと感じています。

Q. 学生時代に学んだことと現在の職業の関係性について教えてください。

仮説を立て、その実証を試みるという思考のプロセスが非常に役に立つ

大学での研究内容と職務内容の関係性という点では、大きく捉えれば同じ化学分野で関連はありますが、より詳細に捉えれば内容は全く異なるため、今後新たに勉強していかなければなりません。

むしろ研究内容ではなく、研究を行うにあたり、どのような仮説を立ててその実証を試み、失敗した場合は問題点を検討して再度試みるという思考プロセスが、この仕事においても非常に役立つと思います。

また、サークル活動での事務局長としての経験は、組織のマネジメントという点でこれから役立つ可能性があると思います。



Q. 将来のキャリアイメージを教えてください。

10年後には組織的な課題も担いたい

5年後には、技術開発にかかわる一通りの知識と経験を身につけて、開発業務を主体的に行えるようになりたいですね。

10年後には、開発業務に従事しながらも、工場の運営方法や人材育成など、組織的な課題に対しても役割を担えるようになっていたいと思っています。

何か新しい技術を開発することで会社の成長に寄与できると思いますし、また一方で、社員同士が気持ちよく働くことができる環境作りなどの面での会社への貢献という形もあり得ると思います。

Q. 学生の皆さんに対してメッセージをお願い致します。

様々なことを「試行」しながら、同時に「思考」することで、自分の「志向」がみえてくる

在学中に様々なことを「試行」し、それを行いながら同時に、様々なことを「思考」して下さい。旅行に行くことでも良いですし、新しいスポーツや趣味を始め试着みることも良いと思います。大学1、2年生の一般教養を学べる時期は、多くの先生の授業に参加して、関連する本を読むことやゼミに入ることも、学生時代にしかできない価値あることだと思います。

最初から安定を求めすぎず、興味のあることにどんどん挑戦しながらも、その背景となる自分の考えや価値観について思いを巡らせてみて下さい。そうすることで、自分のやりたいことや目指すべき職業、つまりは自分の「志向」が自然と浮かび上がってきます。

大事なことは、様々なことを試す中でただ「楽しかった」「つまらなかった」で終わらせず、なぜ自分はそれを楽しいと感じるのか、つまらないと感じるのかといったところまで普段から考えることであり、その習慣はきっと職業選択に役立ちます。



Q. 就職した経緯について教えてください。

結婚・出産を経ても働き続けたいという想いで転職を決意

大学卒業後、地元に戻り半年間塾講師をしましたが、化学に携わる仕事がしたいと思い、化学メーカーに派遣社員として就職し、1年半程度開発のための分析業務に携わりました。そこでは正社員転換のお話もいただきましたが、ルーチン化した業務内容や、結婚・出産を契機とした女性社員の高い離職率を目の当たりにし、その後のキャリアのことを考え、転職を決意しました。

何か新しいことへチャレンジしたいという想いと、結婚・出産などライフスタイルが変わっても働き続けたいという想いが、転職活動の原動力となりました。

Q. 同じ職業の若手社員との違いとして、どのようなことがありますか。

かつて自分が携わった仕事での成果物を土台にして、次の商品開発の提案が可能になった

与えられた仕事をするだけでなく、様々な仮説を検証しながら、新しい商品の開発、新しいスタイルを創っていくことが若手社員との違いだと思います。かつて自分が携わった仕事での成果物を土台にして、次の商品開発の提案ができるようになりました。

また、会社の風土として、過去にとらわれず新しいことにチャレンジすることに積極的であるため、経験を積みながら年次を重ねることで、業務の幅も自然と広がってきています。それに伴い、自分の仕事に付随する影響力も大きくなってきました。

[プロフィール]

Yさん 女性(30代)
開発営業部(技術系) プロジェクトチーフ
入社13年目(中途入社 理工学部卒)

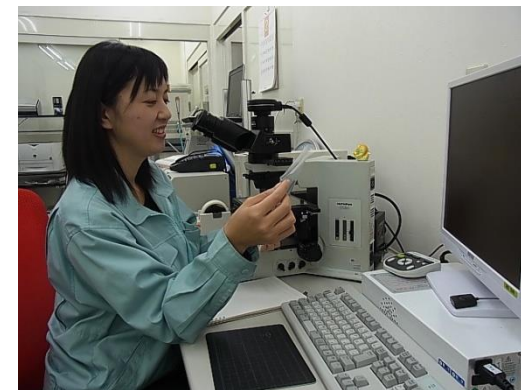
[経歴]

大学卒業後、塾講師、化学メーカー勤務(派遣社員)を経験した後、2001年2月に現在の会社に入社。

入社後は技術開発部に所属し、測定分析、工場管理の仕組み作りなどに携わる。

[現在の主な業務内容]

開発営業部発足に際して技術開発部から異動し、現在は会社初のBtoC(企業対消費者)商品の開発・販売活動に従事。約3年前に素材の提案から開始し、2年前に初の自社商品の商品化、現在は商品の拡販にも取り組む。





Q. 働くなかで感じるやりがいと、苦勞していることを教えてください。

メンバーの力を引き出し、それを集約して成果に繋げるための振る舞い方は思案中

<仕事で感じるやりがい>

新しいことにチャレンジできること、そのチャンスを活かせる可能性が広がっているこの会社で働くことにやりがいを感じています。

<苦勞していること>

若手の頃は、一メンバーとして実働にあたり、自分のタスクをこなすことが主な役割でしたが、共に仕事をするメンバーも増えてきたことから、メンバーたちの力を引き出して、その力を集約することを通して成果に繋げることが求められてきています。周りに対してどのように振る舞っていくべきか、悩みながら日々業務を進めています。

Q. 学生時代に学んだことと現在の職業の関係性について教えてください。

学生時代に学んだことが突如として生きる場面がやってくる

学生時代に学んだことがどこでどう活かされるかわからない部分が多く、突如として生きる場面がやってきます。その意味でも、学べる環境があり、その時間がたくさんある学生時代は、もっとしっかりと学業に取り組んでおけば良かったと後悔もあります。

大学での学問だけではなく、3年前から始まったBtoC(企業対消費者)の拡販業務において、アルバイトの経験が活かした場面がありました。どの経験が仕事に繋がるかわからないので、アンテナを高く張っていることが重要だと思います。





Q. 将来のキャリアイメージを教えてください。

社内メンバー・社外の方々に、自分の会社の魅力を伝えていきたい

現在の会社に入社してから、現在まで、社内・社外含めて多くの方と、様々な仕事をしてきましたが、当社の魅力を非常に強く感じています。だからこそ、今後の仕事を通して、社内のメンバーや社外の方に当社の魅力を感じてもらいたいと思っています。

Q. 学生の皆さんに対してメッセージをお願い致します。

会社の知名度など外形的な基準と仕事でのやりがいや満足感は必ずしもリンクしない

私が就職した後に実感したのですが、じっくり学べる時間と環境があることは本当に有り難いことです。

まだやりたいことが見つからない人も、まずは目の前の授業や課題など何でもやり抜くと新しい可能性が拓けて、次へとつながってくると思います。

一方で、学生時代に思いっきり遊ぶことも本当に大切だと思います。仕事や家庭など、縛られるものがない時期は本当に貴重です。思いきり取り組んだことは、どのようなことでも自分の糧になり、将来に役立っているのではないかと実感しています。

また就職先の選択は、人生でも重要な選択の一つであり、早くから考えておいた方が良いと思います。有名企業である、上場企業である、福利厚生が充実しているなど、外形的な基準で選択しがちですが、そうした基準と仕事でのやりがいや満足感は必ずしもリンクするものではないということも学生さんには知ってほしいです。会社が何を大切にしているのか、どのように世の中に貢献しようとしているのか、という基本的な価値観が本当に大切だなと思います。

自分の進路をどのように見極めるかは難しいと思いますが、学生時代にいろいろなアンテナを張って、働いている人の話を聞いたり、自分がどう働いていきたいのかを考えながら、じっくりと大切に進路を選んでほしいと思います。



Q. 就職した経緯について教えてください。

研究開発系の仕事を継続したかった

大学卒業後、食品添加物会社に就職し研究開発を担当しました。その仕事を約3年続けた後、大学での研究助手に転職をしました。その仕事も約2～3年経験後、求人雑誌に掲載されていた当社を発見し応募して、就職に至りました。

研究助手からの転職活動の際には、自宅から通勤できる範囲で、研究職を続けたいという条件で、就職先を探しました。

Q. 同じ職業の若手・中堅社員との違いとして、どのようなことがありますか。

業務工程をトータルで担当できる、一つのプロジェクトを担える

対外的には、実際に製品の開発・設計から、顧客への提案に至るまで、業務工程をトータルで担当できる(一つのプロジェクトを担える)ということですね。製品の部品一つ一つまで把握しているため、顧客からの要求に対して、当社としてどのような対応ができるのか／できないのかを判断できます。

また、社内の状況も把握しているため、業務などが円滑に進むための段取りの工夫などもできることが異なる点だと思います。

[プロフィール]

Tさん 女性(40代)
開発営業部 プロジェクトチーフ 兼
技術開発課 係長
入社17年目(中途入社 農学部卒)

[経歴]

大学卒業後、食品添加物会社、大学で助手を経験後、現在の会社に就職。2度の育休を取りながらも、キャリアを積んで現在も仕事を続けている。育休制度は、Tさんが社内でも最初の例であり、制度を作ってきたともいえる。

[現在の主な業務内容]

新しい製品の開発、プロジェクトの責任者、他のプロジェクトへの製品のフォロー(ユーザーの要望に対して、適応するような自社の製品の開発)





Q. 働くなかで感じるやりがいと、苦勞していることを教えてください。

開発した製品が商品として陳列されているのを見るときにやりがいを感じる

<仕事で感じるやりがい>

開発した製品が顧客に認められて採用が決まったときはとても嬉しいですね。最終的に商品として、陳列されているのを見ると、「あ、私が作ったもの！」と思いますし、全国各地で、自分たちが作ったものが並んでいるのを見ると、「こんな形で使われているのか」という発見がありますね。

また、顧客のニーズに適切に対応して製品を開発し、それによって顧客の問題を解決したときも嬉しく思う瞬間です。

<苦勞していること>

顧客が困っていることに対して、一生懸命に開発に取り組んでも、顧客が求めているものとマッチせず採用されなかったときは残念に思いますね。また、開発と社内の各部門間との調整において、板挟みに合うことがたまにある点も大変な点ですね。

Q. 学生時代に学んだことと現在の職業の関係性について教えてください。

体育会系クラブに4年間所属して得た経験は社会に出て活かしている

学生時代は、体育会系クラブに4年間所属していたため、そこで身につけたものは、現在まで活かしていると思います。具体的には、いろいろな人がいる集団の中での人との関わり方や、粘り強く一つのことに取り組む姿勢、先輩に対する礼儀、後輩の指導などです。

「先輩からの指示をしっかりと理解して、それに対応すること」「まずは、指示されたことをこなして、その上で自分のオリジナルの提案をすること」は、社会に出たときに役立ったと思います。

体育会系クラブではOBOGの方とコミュニケーションする機会もあり、幅広い年齢の方と関わる経験もできました。



Q. 将来のキャリアイメージを教えてください。

子育ては一段落したが、次は介護の問題とバランスを取りながら働くことが求められる

仕事では、役職を上がりたいという想いは強くないですが、自分で開発したものが一つでも市場で見かけるようにレベルアップした業務を担当していきたいですね。また、係長という立場でもあるので、若手からベテランまでを含めて、さまざまな年代の社員たちと協働して、チームを円滑に回せるようなマネジメントをしていきたいです。

私生活の面では、子育てが一段落して、仕事に集中したいところですが、数年後には家族の介護の問題への対応が迫られると思っています。仕事を続けながらも、介護にどのように対応をしていくべきか、どのようにバランスを取りながら働き続けていくかを模索することになると思います。

Q. 学生の皆さんに対してメッセージをお願い致します。

会社では一人で仕事をすることはできなく、周りのメンバーと協働する力が求められる

(特に理系の学生に対して)「大学でやっていたことが社会では通用しない」ということを念頭において仕事に取り組まなければ長続きしないと思います。「自分がやっていた研究はすごいぞ」と必要以上に過信して就職する人も少なくないと思いますが、実際に大学で学んでいたことをそのまま使って仕事ができる人は本当に一握りだと思います。開発職とはいえ、営業をするときもありますし、長い職業人生の中でどのような仕事を担当することになるかはわからない部分もあります。私が最初の会社を辞めたのは、私自身もそのように思っていたからだという面もあります。

それよりも、研究・授業・サークル活動など、様々な場面で、ある問題にぶつかったときに、自分で解決策を考えて行動してみるという、一連のプロセスのトレーニングの場として大学は大いに活用できると思います。また、技術職といえども、会社という場では一人で仕事をすることはできなく、周りのメンバーと協働できる力が求められます。人との関わり方や、多少注意されたからといって簡単にへこまない姿勢なども必要です。



具体的な職業名

◆ここで紹介する仕事は以下に分類されます。

- 総合商社勤務者
- 専門商社勤務者

※商社には、各種商品を取扱う総合商社と、特定の商品を取扱う専門商社とがあります。

仕事の内容

◆国や地域、会社の間にとって、原材料や製品の売り買いの仲介役をするのが基本的な仕事です。大手商社の場合、取引の約半分は国内取引、残りの半分は貿易取引で、わが国の輸出・輸入だけでなく、わが国を経由しない外国と外国との第三国間取引も行っています。

✓取り扱う商品は「ラーメンからロケットまで」と多種多様で、非常に幅広い情報を組織的に収集します。その中で数量や価格、時期などの取引条件のまとまったものについて契約を結びます。この際、取引先がきちんと商品や代金を準備できるか、経営に不安がないかといった信用状態を調査することも重要です。
 ✓また、取引を仲介するのみではなく、海外に現地企業を設立して、海外投資と貿易を一体のものとして資源開発等を行ったり、様々な情報、将来展望をもとに国内外において新規事業を開拓することもあります。

(出所:ハローワークインターネットサービス「商社営業部員」
<https://www.hellowork.go.jp/doc2/C28103syousyaeigyoubuinn.pdf>)

関連資格

- ◆各種語学力の資格
- ◆アメリカ公認会計士
- ◆簿記2級以上

(上記は、インタビューにおいて実際に商社勤務者から挙げられた資格)

働く人の姿

◆代表的な商社で働く人の姿(総合商社、総合職(基幹職)について)

※東洋経済新報社『会社四季報』に商社として掲載されている全7社のデータの平均

- 平均従業員数(単体) : 4,518人
- 平均年齢 : 41.9歳
- 平均初任給(大卒、2014年度4月実績) : 205,480円
- 平均採用実績数(2015年度入社予定) : 121人

(出所:東洋経済新報社(2015)『会社四季報2015年1集』「商社」データ、及び各社HPより)

労働条件の特徴

✓休日は週休二日制が一般的です。労働時間は、海外との取引で、時差の関係から深夜に連絡を取り合わなければならない場合などに残業が生じることがあります。

✓海外勤務、地方勤務としての転勤や、海外・国内各地への出張が多いです。

✓海外駐在については、条件が整えば入社2~4年で赴任することもあり、若手が積極登用されるのも、商社の特徴です。配属される部門にもよりますが、退職するまでに2・3回の海外駐在を経験することもあります。

✓商社の原動力は人であり、優秀な人材を集め育てる必要性から、給与水準は全体として他業界に比べて高いです。また、近年の採用(総合職)では女性の新卒者や中途採用者が増加しています。

(出所:ハローワークインターネットサービス「商社営業部員」
<https://www.hellowork.go.jp/doc2/C28103syousyaeigyoubuinn.pdf>)



Q. 学生時代のご経験と就職した経緯について教えてください。

国際的なスケールで、自らが主体となりビジネスをしたいと思った

学生時代には、小学校から続けてきた野球を続ける一方で、イギリスへの交換留学も経験しました。進路の選択にあたり、国際的でスケールの大きい仕事(特に電力等のインフラ事業)ができ、かつ、アドバイザー等の第三者的立場ではなく、自らが主体となってビジネスに入り込んでいけることに魅力を感じていたため商社を志望しました。

イギリス留学中に、当社のロンドンオフィスに訪問する機会があり、そこでの社員さんの人柄や伺った仕事の話の内容が非常に興味深く、商社の仕事に憧れを感じ、この会社に入りたいと決意しました。

Q. 商社の仕事には、どのような人が向いていると思いますか。

向上心を持っている人、相手の目線に立てる人、外国の文化や風習を受け入れ海外生活が苦にならない人

向上心を持っている人、相手の目線に立てる人、そして海外生活が苦にならない人だと思います。やはり、職場は専ら海外になってしまうため、海外で生活したくないという人には少し苦しいかもしれません。

海外での仕事では、大変なことに直面することもあります。それから逃げ出さず、できる限りその土地の文化や風習の理解に努め、相手の目線を理解した上で交渉しなければなりません。

また、困ったときは、一人で突っ走っても空回りしてしまうので、適宜上司やメンバーの方々へ相談するなど、コミュニケーションを取ることも大事になってきます。

【プロフィール】

Hさん 男性(20代)
海外電力プロジェクト第四部 電力事業第一チーム
入社3年目
(新卒入社、経済学部卒、在学中イギリスのビジネススクールへ約1年間交換留学)

【経歴】

大学卒業後、現在の会社へ新卒で入社し、現在3年目。1年目から継続して中東IPP案件に関する業務を担い、この3年間の約半分はサウジアラビアの案件を担当してきた。

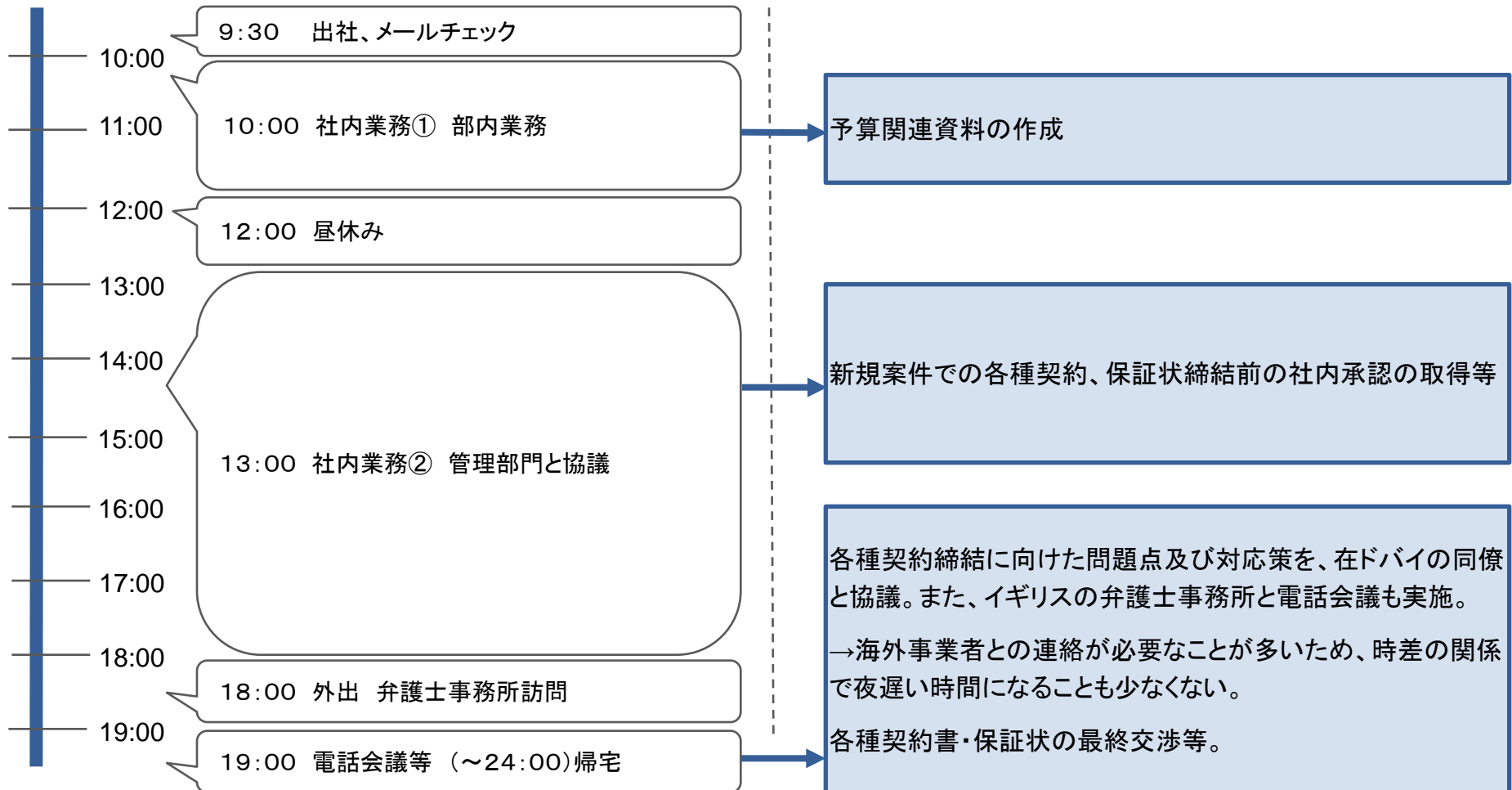
【現在の主な業務内容】

中東・アフリカにおけるIPP案件開発(応札からファイナンスクローズまで)が主な仕事内容。
設立した事業会社が軌道に乗るまで、事業会社の業務を財務、経理、総務・人事などあらゆる面でサポートする。具体的には、財務諸表作成、税務申告、株主取締役へのレポート等。





Q. 1日の仕事のスケジュールを教えてください。





Q. 働くなかで感じるやりがいと、苦労していることを教えてください。

ゼロから始まった案件が、次第に形となっていく過程を目にしたときやりがいを感じる

<仕事で感じるやりがい>

応札から関わったIPP案件で、受注、契約調印、ファイナンスクローズを達成し、発電所の建設が始まったり、事業会社で現地従業員を雇うなどして、ゼロから始まった案件が次第に形となっていく過程を目にしたときにやりがいを感じます。

自分の業務範囲はまだ小さいですが、学生時代に思い描いたような、スケールの大きい、世界を相手する仕事に関われていることには満足しています。また、社内だけではなく、弁護士、銀行、海外の投資家等、さまざまな業界の専門家の方と関わることができ、多くのことを学び、吸収できる環境に身をおけることは有り難いと考えています。

<苦労していること>

多くの契約当事者がいる中で、プロジェクトをスケジュール通りに進めていくことです。特に中東の共同出資者や客先は、文化や考え方が日本と大きく異なり、日本のやり方を押しつけるだけでは話はまとまりません。中東の方とは、ビジネスパートナーというよりは、まず人間関係を築くことが優先されます。何もトラブルがないときにも顔を出すなどして信頼関係を築いた上でなければ、ビジネスは始まりません。

Q. 学生時代に学んだことと現在の職業の関係性について教えてください。

「知識」よりも、何かに取り組む「姿勢」が活きている

学生時代は国際金融ゼミに所属していましたので、今の仕事との関係は多少はあります。しかし、その知識は基礎的なものであり、実践で使えるものとしては社会人になって覚えたことの方がはるかに多いです。

役立っているのはむしろ、留学中に学んだ海外の方々と議論する姿勢(明確に意思を伝えるなど)や語学力、野球を通して学んだ諦めない姿勢等だと感じています。



Q. 将来のキャリアイメージを教えてください。

複数分野のスペシャリストと協働できるジェネラリストになりたい

この先5年間はまだまだインプットが必要だと考えています。

5年後までに、当社が出資する海外の発電事業会社での出向経験を積み、IPP案件の履行に必要な分野の知識を一通り理解して、それを活かしてビジネスができるジェネラリストとして活躍したいです。具体的には、法務、財務、技術的な知識が必要であり、一緒に仕事をするそれぞれの専門家(スペシャリスト)の方々の話を深く理解し、全体を統括できる姿を目指しています。

10年後には、プロジェクトマネージャーとしてチームを引っ張る存在となり、中東に加えアフリカ等の未開拓市場に入り込み、大型案件を受注する、というのが現在のビジョンです。

Q. 学生の皆さんに対してメッセージをお願い致します。

一つのことに全力で向き合った経験は、必ず社会に出て生きてくる

学業でも、スポーツでも、趣味でも何でも良いので、自分の打ち込めるものを何か一つ見つけ、納得するまで思い切り打ち込んで下さい。

一つのことに全力で向き合う経験を学生時代にした人は、社会に出て、どんな分野でも目標を絶対に達成できると思いますし、大きな成長ができる人だと思います。当社には、熱くなれることを何か一つでも持っており、目標を高く設定して、熱心に取り組んできた人が多いです。

商社での仕事では会計に関する知識が求められるため、アメリカ公認会計士(USCPA)等の資格を取得しておく、業務に活かすことができると思います。



Q. 学生時代のご経験と就職した経緯について教えてください。

総合商社は、さまざまな分野を扱えることが魅力的だった

元々語学が好きで、大学時代も海外の友人が多かったことから、会社で働くのであれば、世界をフィールドにとの想いが強くありました。会社説明会への参加等を通して、商社の仕事に魅力を感じたことから就職活動は商社のみを対象として活動しました。

メーカー等でも海外に関わることはできるかもしれませんが、総合商社の場合、特定の商材・分野に限られることなく、広くさまざまな分野を扱え、業務も多岐に亘ることに魅力を感じていました。

Q. 同じ職業の若手社員との違いとして、どのようなことがありますか。

海外事業会社の運営で得た着眼点・ノウハウ

実務的な業務知識の量や、情報処理のスピードがそもそも違うと思います。

また、海外の事業会社の運営を通して取得した着眼点・ノウハウも違いの一つです。6年間、中米の事業会社に出向し、現場の最前線にいたことで、「現場はどう考えるのか」を常に考え、供給元であるメーカーに対して資料の作成やロジックの構築ができるようになりました。

若手社員を引っ張っていくリーダーシップも求められますが、「若手」を一括りにはできず、それぞれの社員に得意・不得意があることを意識しながら気を配るように心掛けています。

[プロフィール]

Kさん 男性(30代)
自動車第二部 自動車第五課 課長補佐
入社11年目
(新卒入社、経済学部卒)

[経歴]

大学卒業後、欧州の事業会社管理(1年目)、アフリカ・南米向けのトレード及び事業会社管理(2年目)、中米の事業会社への出向(3~9年目)、中東・アフリカ向けトレードと新規投資案件の開拓(10年目~現在)と、自動車のトレード、卸売業を中心にキャリアを積んできた。

[現在の主な業務内容]

中近東、アフリカ向け自動車の輸出(トレードファイナンス)及び、中近東・アフリカでの新規事業投資案件の推進。





Q. 働くなかで感じるやりがいと、苦勞していることを教えてください。

若いうちから責任ある仕事を任されたこと／相手のニーズに刺さるファクターを模索すること

<仕事で感じるやりがい>

若いうちから、責任ある仕事を任せてもらった点にやりがいを感じ、非常に満足しています。入社3年目で、「日本人は自分一人」という環境の海外の事業会社に6年間出向し、パートナーから事業会社運営のノウハウを学ぶことができ、幅広い人脈も築くことができました。

海外のパートナーと関係を築いていくためには、「こいつは使える！」と思ってもらうことが必須であり、そのために自分が提供できる価値は何なのか、試行錯誤してきました。

<苦勞していること>

現在の担当地域はカントリーリスクが高く、文化圏もこれまで経験してきた米州とは大きく異なることから、新規案件・新規事業の開拓に向けた顧客との交渉等では中々思うように進まないこともあります。治安的なリスクだけではなく、交渉を進めていく上で、相手に納得してもらい、相手のニーズに刺さるファクターは何なのかを、日々模索している状況です。海外での交渉にあたっては、自分の文化に固執しすぎないこと、相手の文化に興味を持ち、尊重することを意識しています。

Q. 学生時代に学んだことと現在の職業の関係性について教えてください。

(第三・第四言語としての) 語学・財務会計・PCスキル等をもっと勉強しておけば良かった

大学で学んだことが直接業務に役立っていることはあまりないですが、大学時代に学んだ語学・統計学等是一部役立っていると思います。

時間のある学生時代に、(第三・第四言語としての) 語学・財務会計・PCスキルを、もっと勉強しておけば良かったと感じるところは多々あります。



Q. 将来のキャリアイメージを教えてください。

海外を中心としたキャリア形成を考えている

これまで自動車のトレード、卸売業(小売り含む)を中心にキャリアを積んできたことから、販売金融等の新たな分野にも挑戦し、10年後はどの分野でも円滑に事業会社の経営ができるようなキャリアを積んでいきたいと考えています。

基本的には、本社で2~3年、海外で4~5年程度のスパンで、海外を中心としたキャリア形成を考えています。やはり、利益を生み出すのは現場であり、その現場を経営者的な立場で切り盛りすることに非常にやりがいを感じています。

Q. 学生の皆さんに対してメッセージをお願い致します。

商社では語学力は必須だが、語学力は自分の財産としても残る

大学の4年間は比較的自由に時間が使える方も多いと思います。何事も経験ですので、ワイドな視点で、ご自身の知見を広げるため、よく遊び、よく学んでいただければと思います。そこでの経験は、必ず自身に残ります。

また、会社に入って業務を円滑に遂行する上で必要となる基本スキル(語学やPCを使った情報処理等)を時間のあるときに集中して勉強すると、どの業界に行っても、またプライベートでも、将来必ず自分に良い意味で返ってくると思います。

商社では語学力は必須ですが、語学力は自分の財産として残ります。可能ならば、習得したい言語が使われている国・地域に数ヶ月実際に住み、習得することをおすすめします。





Q. 就職した経緯について教えてください。

OB訪問を通して、先輩の人柄に惹かれた

元々、海外で働いてみたいという希望があり、商社の仕事に興味がありました。

大学の部活(体育会・アーチェリー部)の先輩が複数名当社に勤務しており、OB訪問を行う中で、先輩方の人柄に惹かれ、こうした先輩と一緒に働きたいと強く感じたことから当社を志望しました。

最終的には、商社というよりも、当社で働きたいという想いが強かったです。

Q. 同じ職業の若手・中堅社員との違いとして、どのようなことがありますか。

課全体として目指すミッションやビジョンを共有するよう働きかけをすること

課の全体の仕事を把握した上で、各課員の業務量を見極めて仕事を割り振り、それぞれの業務の進捗状況を把握しながら確実にプロジェクトを推進していくことがマネージャーには求められます。

現在、9名の部下が課に配属されていますが、それぞれ異なるバックグラウンドを持っています。例を挙げると、公認会計士が2名、弁護士が1名います。課長とはいえ、必ずしも課員よりも専門性が高い必要はなく、そうしたプロフェッショナルな部下に対しても、課として目指すミッションやビジョンを共有し、同じベクトルに向かわせることが課長としての私の役割だと考えています。

そのために、毎月15分間、部下と一対一で、自由に話をする機会を設けています。

【プロフィール】

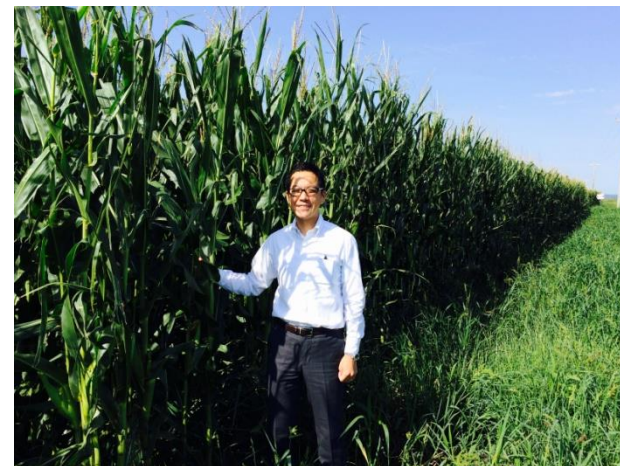
Yさん 男性(40代)
穀物第一部 海外企画課長
入社20年目
(新卒入社、商学部卒、社費派遣でアメリカの経営大学院に留学し、MBAを取得)

【経歴】

入社当初は船舶の売買を主な業務とする船舶部に配属。ビジネススクール留学後、金融ビジネスを行う部署に異動し、5年半ニューヨークの事業会社に出向し、経営管理業務に従事。その後、事業投資やファイナンスビジネスの経験を活かすべく穀物部に異動し、現在に至る。

【現在の主な業務内容】

主にコーン、大豆、小麦といった穀物、油糧種子の3国間向けトレードを行っている。
生産国(北米・南米など)で買い付けし、日本・中国・東南アジア等に売る際の間に入り、サプライチェーンを結ぶ役割を担う。いかに安定的に効率よく大量の穀物を運ぶことができるかが、付加価値の源泉となる。





Q. 働くなかで感じるやりがいと、苦勞していることを教えてください。

——— 自分の仕事が直接、日本や世界の穀物の安定供給に繋がっており、社会的な貢献を感じられる

<仕事で感じるやりがい>

自分の仕事が直接、日本や世界の穀物の安定供給に繋がっていることを日々感じることができ、社会への貢献を実感できることは大きなやりがいに繋がっています。大きなプロジェクトになるほど、社会的な貢献を強く感じるすることができます。ボランティアではありませんが、自分たちの取り組みによって、誰かの役に立っていると感じられることに喜びを感じながら仕事をしています。

<苦勞していること>

事業投資案件はプロジェクトの実現までに長い時間がかかることから、一つ一つの問題点を根気よくつぶしながら粘り強く対応していかなければなりません。ゼロからの立ち上げ案件では、少なくとも2~3年はかかるため、モチベーションを維持しつつ、事業にあたることは大変です。

ただし、そのプロジェクトが実現できたときの充実感は非常に大きいものがあります。2008年の世界金融危機のときも、海外の事業会社で苦勞をしましたが、あの経験があったからこそ、今に繋がっていると感じています。単純に右肩上がりの安定した環境では今の自分はなかったでしょう。

Q. 学生時代に学んだことと現在の職業の関係性について教えてください。

——— 会計の勉強、海外留学や国内での留学生との交流が、将来の仕事に役立つ

学業的な意味では、会計の知識は企業に入ってから直接的に役立つ勉強であるといえます。

また、働き出してから特に海外との業務を通じて、日本人とは違う文化・価値観の人々と仕事をしていくことの難しさを感じたことから、やはり、学生時代に海外留学や国内での留学生との交流を通して、国際感覚を身につけておくことは重要だと思います。

また、一つの目標に向かってチームで頑張るという意味で、体育会は会社組織に非常に似ており、チームで協働する際のマインドや周りとの関わり方は、体育会で身につけたものが大きいと思います。



Q. 将来のキャリアイメージを教えてください。

経営企画での学びを通して、将来の穀物本部の戦略を描く

(インタビュー時点での)来月から、経営企画部に異動が決まっており、主に会社全体の海外市場戦略の策定・推進に従事することになりました。会社全体の経営に携わる経験を活かして、5年後、10年後には、穀物本部の経営戦略の策定・推進や海外の事業会社において、現場の経営に携わっていきたいです。

Q. 学生の皆さんに対してメッセージをお願い致します。

国際経験を積み、異なった視点から物事を見られるようになってほしい

総合商社の仕事は、社会への貢献を、仕事を通してダイレクトに感じられる仕事であり、非常にやりがいがあるので、学生の皆さんにも総合商社を是非志望していただければと思います。

学生時代は、好奇心を持っていろいろなことに取り組み、特に留学などを通して海外の経験を積まれ、異なった視点で物事をみられる広い視野を養われることをお勧めします。

海外からの視点を持つことで、これまでとは違った日本をみることができ、日本の良さを知ることに繋がります。また、国際経験それ自体を積むことによって、自分の人生が豊かになります。